

平成元年三月

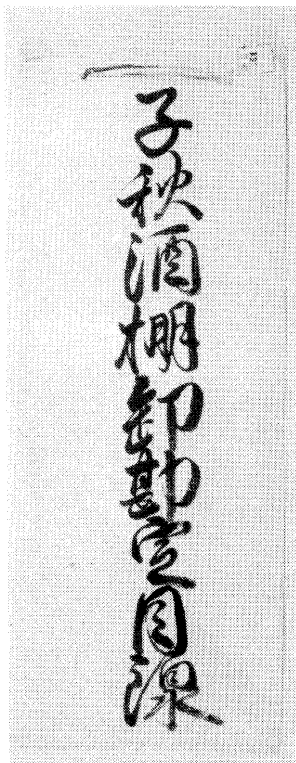
史料館所蔵史料目録 第四十八集

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その二）

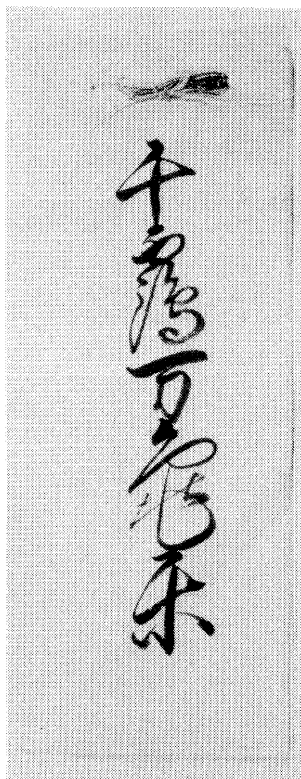
史料館

史料館所蔵史料目録 第四十八集

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録
(その二)



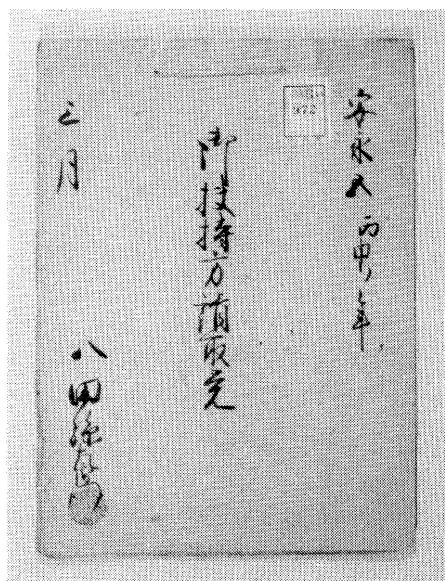
酒棚卸勘定目録表紙
文政十年〔28Bい364〕



酒棚卸勘定目録裏表紙
文政十年〔28Bい364〕



諸向請払帳 天保4年〔28Bい881〕
(竹箋見出し付)



扶持方請取覚 安永5年〔28Bい972〕



覚(扶持方請取) 宝暦2年〔28Bい960〕

凡 例

一 本目録は、『史料館所蔵史料目録』第四十八集「信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その二）」として、同文書のうち冊子型史料と関連の書付若干を収めた。

一 史料は、史料群全体の構造を表現し得るよう、文書を作成ないし管理していた組織、文書の作成動機と機能、伝存の契機、内容等に応じ、大・中・小の項目を立てて類別配置した。大項目は一二ポイント活字、中項目は一〇ポイント活字、小項目は九ポイント・ゴチック活字で示した。また、必要に応じて〇印で細項目を示した。他の項目中にも掲げることと考えた史料は※を付して重出した。さらに、関連史料が収められている項目を「↓」「……」と表示した。類別配置の基準については巻末の解題を参照されたい。

一 史料目録の記載欄はほぼ、(一)表題、(二)作成者または差出人、(三)宛名、四作成年月日または記載期間、(五)形態、(六)数量、(七)整理番号の順である。

一 表題（史料名称）は原則として原表題を採り、適宜加工した。原表題の無いものには仮に命名して（ ）を付した。なお、適宜「」を付して内容を摘記した。

一 作成年次は年月日もしくは干支を採り、推定年次の場合は（ ）を付した。なお、勘定帳や取調帳の類で、作成年月日の他に勘定・取調の期間を示す要を認めた場合は、「」を付して併記した。

一 史料の形態は、冊子型史料では、半（半紙堅折判）、半切（半紙堅半截判）、横長半（美）（半紙（美濃）横折判）、横半（美）列（半紙（美濃）横折紙列帖装）、横切半（美）列（半紙（美濃）横切紙列帖装）、堅半（美）半（半紙（美濃）堅折紙半截判）などによって表記した。これらの用語は判形に料紙の使用法も加味して概念化したものであり、従来の『史料館所蔵史料目録』での表記用語を改めているので、八田家文書目録（その一）解題において説明を加えた。なお、「半」「美」は半紙判・美濃判に代表させて料紙の大きさを示したもので、料紙の種類を示すものではない。特に大型のものは美の下に大を加えた。また、特に小型のものについては、いちいち何分の一に截断したかを記すのは煩雑なので、小を冠し、縦横の寸法をセンチメートル単位で示した。書付型史料は通をもつて数量を記し、紙型の大小・寸法は省略した。

一 史料の利用にあたっては巻末の解題を参照されたい。

一 本目録の作成は安澤秀一が担当した。

目次

口絵

凡例

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その二）

頁

目次

三

目録

五

解題

四

信濃国

埴
代
松
伊
勢
町
郡

八田家文書目録
(その二―28Bい)

信濃国

埴科郡
松代伊勢町

八田家文書目録(その二―28Bい)目次

内方 (御茶之間).....	頁五
系図・親類書.....	五
由緒、扶持方請取.....	五
相統.....	五
家督.....	五
家訓・規定.....	六
帳面仕立方、勝手向取締 (家政立直し)、元方・勘定一式.....	七
奉公人.....	七
店人別規定 (奉公人規定)、奉公人勤向、奉公人給金不払一件.....	八
所有地経営.....	八
家屋敷建築、下屋敷、抱屋敷引請、抱屋敷普請、手作地、田地譲渡取調、小作料貢取立、小作年貢滞、土口村小作、矢代村小作、生菅村小作、長岡助右衛門小作、古川敷小作、東寺尾村新堰.....	八
小作年貢滞出入一件.....	二
岩村田小作年貢滞一件、飯山小作年貢滞一件、田野口村小作年貢滞一件、中野質地一件、赤倉湯一件.....	二
才木方.....	二
通船方.....	二
金融.....	二
預り金利払、貸付金、貸付金調、貸付金返済滞、無尽、広田筑後・岩出六右衛門無尽一条、皆神山無尽、家中侍借財勝手向立直し.....	二
出張.....	二
出張.....	二
金錢穀物請払.....	三
請払勘定覚、木町伊勢町差引帳、店方え下金・上納金、金錢請取、金錢払方、雜穀、売掛金滞.....	三
賄.....	三
諸品通帳 (家計).....	三
棚卸.....	五
日記・控留.....	五
手控、殿様湧泉亭御入一条.....	五
儀礼.....	五
為知帳、赤飯配、到来物、引越為知、法事、祝儀入料、離縁.....	五
社寺奉加.....	五
社寺奉加、菩提寺淨福寺一件.....	五
家財.....	五
武器、諸道具.....	五
見聞・風聞書.....	五
諸芸.....	五
武芸・文芸、茶の湯.....	五
店方.....	五
酒造方 (酒蔵・酒店).....	五
酒蔵・酒店勘定、酒売掛帳、棚卸酒、酒道具貸付、酒蔵普請、水油、酒店諸控留.....	五

呉服店	三
呉服仕入勘定、古着	
油店	三
油・醤油	
醤油店	三
陶器方	三
質店	三
町方	三
町会所、穀行司、御巡見様入用、大庄屋	
松代藩御用	三
御用金	
会所・商社	三
紡会所、木綿行司、産物会所鑑札名面、産物会所冥加金、産物会所仕入金融通、産物無尽、葉藍、甘草・杏仁、陶器竈、大坂にて金子調達、産物会所手控、産物会所勤人別、産物会所入用、産物会所仲間給金、商社	

信濃国 埴科郡 松代伊勢町 八田家文書目録(その二) (文書番号 28 B い)

内方 (お茶之間)

系図・親類書

由緒

覚(御帰城之節町名主・長町人罷出候人数) 当番中川三郎左衛門・増田宗右衛門 宝暦十年七月	横長美	一冊	い 四〇四
八田孫左衛門以下代々勤方書上 (享和二年以降)	横長美	一冊	い 三三八
大殿様御紋服拝領仕候ニ付諸方え為知御請等申 上侯調書 八田嘉右衛門・名代辰三郎 文化九年三月	横長美	一冊	い 四九
(八田喜兵衛書上由緒) 写 文政七年	横長美	一冊	い 三六二
口上覚書(当寺開山俗姓之事) 宗準 八田嘉 右衛門宛 文政七年正月	半	一冊	い 三九五
口上覚書(八田氏由緒と宝積寺開山縁起とのか かわり尋ニ付) 宝積寺宗準 八田嘉右衛門宛 文政七年	半	一冊	い 八六
(八田家由緒書) (文政年中)	半	一冊	い 三六五

扶持方請取

御扶持方請取覚 八田孫左衛門 安永五年	横長美 半折	一冊	い 九七
御扶持方請取覚 八田嘉助使市右衛門 享和三年	横長美 半折	一冊	い 九〇
八田慶助御扶持方之内右人扶持請取通帳 八田 嘉助 天保七年	横長半 半折	一冊	い 九一
御扶持方請取覚 八田嘉助(愼藏)使藤五郎 嘉永二年	横長美 半折	一冊	い 九六
嘉永五年 八田愼藏 1 嘉永五年頂載物并両店写出方之調 2 頂載物等出方之調(下書)	横長半 横長美	一冊	い 三六
相統			
家督			
知則家督一件 嘉永二年 1 家督一卷取調帳 2 家督為御飲到来物覚帳 3 赤飯配帳 4 赤飯配箇所分帳	横長半 横長美	三冊	い 四五一
嘉永二年二月家督被仰付之一卷 八田知則(袋 入) 八田嘉助 嘉永二年	半	一冊	い 四〇
嘉永五年正月 知道 1 家督一卷取調		合一冊	い 四六五

2 赤飯配
3 御歎玄關帳
4 就家督祝儀到來物扣
横長半 一冊
横長美 三冊

家訓・規定

帳面仕立方

（四二口諸相場書込用下敷）
横長美 一枚 い 八〇

勝手向取締（家政立直し）

来丑年々十ヶ年之間（菩提寺并御師祈願料） 儉
約定（八田家）
横長美 一冊 い 八三

文化一一年々文政元年迄五ヶ年之間勝手向取締
横長半 一冊 い 三〇

拝借改 幾之助 文化一四九月
横長半 一冊 い 二六五

丑春酒方質方徳分小作年貢取集調（文化一四
年々）
横長半 一冊 い 五九

卯春酒方質方徳分小作方調（文政二年）
横長半 一冊 い 五八

辰春西方徳分調 文化二年
横長半 合一冊 い 三四
（四冊
袋共）

1 辰春徳分調

2 卯年暮方調

3 御預金御取替金拝借金差引調

4 辰春有物調（酒方・質方・小作方・口々、飯米・
給方・年貢・肴屋・呉服小間物他）

諸向請払帳（繰出し用竹箋付、頂戴御物成、入
上家質、酒造、質方、利金、取入金、当用手

許払、下屋敷、雑用渡、材木方、無尽、利分渡、
雑記、質地貸付、通船方、貸出金） 八田知則

天保四年
横長美 一冊 い 八二
半折

天保一二年一二月 八田嘉右衛門 大嶋・吉沢・
池田宛

1 借財取調之覚
2 収復手段之調
3 拝借御内借惣々
4 勝手向取締のため格段利安之仰預金願書状
5 覚（預金利足勘定）
6 暮方積
7 （拝借御内借勘定）
横長美 合一冊 い 三六
（六冊
通）

（店方等、家政立直し案）（天保年間カ）

（天保一二）嘉永三年）

1 借財取調
2 勝手向取締ニ付嘆願之調
3 御礼金渡ニて拝借ニ相成居候分
4 八田嘉助御内借取調（天保一四）嘉永三年）
5 勝手向収復ニ付御内ニて嘆願候
6 八田慎蔵借入金調
7 当番之調
8 収復手段之調
9 御預り金借入金調下帳
10 有金覚
11 他借
12 （有金覚下書）
横長美 一冊 い 三五六
（二冊）

借入金手段調 嘉永二年

扣（酒造方、質方、家質、山田、貸出金、預り
金返済方、無尽掛出方、年中暮方、下屋敷其外
手当物）（嘉永二年）
横長美 一冊 い 一〇四
半折

勝手向収復ニ付嘆願之調 安政五年
横長美 一冊 い 三六七

少々留書（貸金・糸会所預金・祝儀・無尽金そ
の他）
横長半 一冊 い 一三〇

戊暮元方（請払勘定覚・来亥年借財金高）
横長半 一冊 い 一三二

(家産・家業立直しニ付持屋敷・畑・山并商方・奉公人人数 書出下書) 横長半 一冊 い 一四九

覚(奉公人給金仕着せ・飯米・無尺等出金と、酒方・小作方・家賃・油・利分入金勘定) 横長半 一冊 い 一五

酉年中惣請弘口立覚(頂載物・酒造并酒店油共、呉服・田畑山家屋敷、作方、預金借入金、年中暮方、甘草方、通船方、貸出金操廻し金、無尺掛戻懸出金、払物) 横長美 一冊 い 一八

借財取調之事、家内暮方之事、普請手入万端之事 未年八月二八日 横長美 一冊 い 一〇

覚(借用金返済仕法并暮方、酒仕入方立直シ費用) 八田喜左衛門 午年五月 横長美 三枚 い 一九

(才木方納金請取覚、御上御預り金并御用立金取調他諸勘定覚) 巳年 横長半 一冊 い 三〇

(辰三郎借財ニ付取計方覚)

子年暮方并有物調下帳 横長美 一冊 い 二六

御暮方御入箇金(八田家立直し仕法) 横長半 一冊 い 三五

(明治九年の五ヶ年賦金利八分之勘定覚) 明 横長半 一冊 い 二三

元方勘定一式

耕作方上納請取通 元方 天保七年 横長美 一冊 い 三三

金錢御中借通帳 作事方喜左衛門 天保七年 横長美 一冊 い 三三

金錢御中借通帳 地方掛り源吉・良右衛門・宗弥 天保七・八年 横長美 一冊 い 三三

金錢御中借通帳 買物方数右衛門・勝之助 天保七年 横長美 一冊 い 三六

御手充頂載物請取御通 数右衛門 天保七年 横長美 一冊 い 三三

御給金請取通帳 源吉 天保七年 横長美 一冊 い 三三

奉公人

店人別規定(奉公人規定)

* (奉公人召抱之節、給金小遣、望性積立、仕着等、其外勤方行儀定、写留) 横長美 一冊 い 八四

奉公人勤向

覚日記(奉公人勤方年季) 菊屋 宝曆二年 横長美 一冊 い 九六

覚(奉公人給金、仕着、雑用、其外諸事作徳・壳銀) (宝曆二年カ) 横長美 一冊 い 九六

抱人え被下物覚扣 文政二年分 横長美 一冊 い 六四

奉公人切米并諸色渡 文政二年 横長美 一冊 い 七五

雇人日数帳 天保八年 横長半 一冊 い 六八

奉公人給金不払一件

天保一三年 平兵衛訴出 天保一三年 四冊 い 七五

1 (當時江戸住居平兵衛、文政十三年の松代伊勢町伝兵衛方奉公中、岩村田懸分一件他之働きニ付給金并小遣金等相渡異度、訴訟書留) 美半 (二冊)

2 (當時江戸住居平兵衛、文政十三年の松代伊勢町伝兵衛奉公中一条ニ付答書写) 美半 (二冊)

3 (當時江戸住居平兵衛、文政十三年の松代伊勢町伝兵衛奉公中一条ニ付答書写) 美半 (二冊)

4 (當時江戸住居平兵衛、文政十三年の松代伊勢町伝兵衛奉公中一条ニ付答書写) 美半 (二冊)

勢町伝兵衛奉公中一条ニ付訴書亨

数右衛門倅佐七、伝兵衛相手取文化年中良性院
預り金一条伺日記 天保一四年

半 一冊 い 八三

（数右衛門倅佐七、伝兵衛相手取訴訟ニ付、再
願書留） 天保一四年

美 一冊 い 八三

（数右衛門倅佐七、伝兵衛相手取訴訟ニ付、淨
福寺宛 扱方願書） 天保一四年

美 一冊 い 八四

所有地経営

家屋敷建築

懷中控（八田様御屋敷塀） 大橋由次 天保一〇
年四月

横長半 一冊 い 二七

金子請取覚 瓦屋 天保一二年

横長半 一冊 い 一〇三

（八田嘉左衛門方家修復諸入用覚）

横長半 一冊 い 一四四

中町屋敷取調帳

横長半 一冊 い 一四六

（板・釘其他建築資材納品覚）

横長半 一冊 い 一四三

（人足出日数并手間賃覚） 瓦屋左兵衛 七月一二日

横長半 一冊 い 五〇五

下屋敷

下屋敷え渡物取調下帳 八田知則 天保二三年

横長美 一冊 い 九〇四

外田町御下屋鋪御年貢取集一紙 文久二年

横長半 一冊 い 六六〇

外田町御下屋鋪田畑御年貢上納取調 慶応二年

横長半 一冊 い 六六三

外田町抱屋敷讓渡金子請取覚 慶応三年

横長半 一冊 い 九〇七

抱屋敷引請

御売渡之屋敷家作之品々書上帳 鍛冶町平八
関田庄助役代伝治宛 文化七年

横長半 一冊 い 六七

木町銀左衛門家屋鋪引請候節品々覚帳 文化八
年

横長美 一冊 い 六八

柳沢村家作一卷調書 天保二年

横長半 一冊 い 七三

抱屋敷普請

御殿向普請入用大方調帳 柿崎伝左衛門普請方世
話人 文政五年七月

横長半 一冊 い 六五

木町御裏長屋御普請一卷入 伊勢町大工六右衛門
文政八年

横長半 六冊 い 六六
(袋共)

1 木町御裏長屋入用請弘調帳

2 御普請品積り帳（内題 御裏長屋御普請御入料
御勘定一紙）

3 覚

4 御普請品々書立帳

5 覚

6 覚

寺尾御抱屋敷戸障子取調帳（店・表・二階表、
他） 天保七年五月

横長半 一冊 い 六七

木町御店御普請入用并諸道具代調帳 （天保九
年 戊閏年四月）

横長半 一冊 い 六三

堀御普請積り帳 大工敬司 八田様宛 天保一
〇年四月

横長美 一冊 い 六九

手作地

手作取入并品々買入覚 巳年6午年迄

横長半 一冊 い 六六

拝借地并田畑御年貢取調 文久四年・慶応元年
(畠方利金勘定覚) (前後欠)
横長美 一冊 い 六二
横長美 一綴 い 七二

田地譲渡取調

田地譲渡取調帳 (東寺尾村他) 天保一二年 横長半 一冊 い 七五
田地譲渡取調帳 (東寺尾村他) 天保一二年 横長半 一冊 い 七六
(八田家持地絵図面) (天保一三年書入あり) 美大 一冊 い 八三

小作年貢取立

田畑山高書貫覚 宝暦九年 横長美 一冊 い 七二
小作年貢・取立金其外勘定覚 寛政七年 横長半 一冊 い 六九
田地入上初代金年々請取通帳 伊勢町名主助右衛門 文化三々天保元年 横長半 一冊 い 六二

文化四年 合一冊 い 八四
1御口入金引当地所水入帳 関田良助 (三冊)
2借主持分沖附御書上帳 泉平村 横長半 (二冊)
3御書入名所附帳 横長美
4御書入地所水入帳、下三輪村 横長美

年貢通帳 名主弥兵衛 文化五年 横長美 一冊 い 六二
文化五年より文化十年迄小作年貢取入勘定帳 半折
吉兵衛 六右衛門・和七宛 (文化一一) 戊年 半 一冊 い 三四〇

亥御年貢帳 岡神明組役代直右衛門 文化一二年 横長半 一冊 い 七六
覚(小作入初明細) 森村八郎左衛門 八田嘉右 横長美 一冊 い 七八
衛門宛 文政元年

文化七年の文政元年迄惣差引勘定帳但金子差引之分者当年迄末ニ記 岡川平十郎内与三郎 伊勢町様宛 文政二年一二月 横長半 一冊 い 二九五

質地入上請取通帳 八田嘉右衛門内浦野忠七 文政二年 横長美 一冊 い 七九
半折

小作入扣 淨福寺役代伝右衛門 文政三年 横長半 一冊 い 六四

御年貢諸夫銭初并小作入初改扣 文政五年 横長半 一冊 い 六四

三ヶ年田畑屋敷小作年貢調帳 文政六年 横長半 一冊 い 六六

覚(寛政十一年の文政七年迄関入山買入田年貢小作初勘定) 文政七年 横長美 一冊 い 六七

御抱(家敷) 田山小作入差引入上覚(木町、鏡屋町、伊勢町、西木町、石切町、東条村、田町、荒町、西条村、東条村、牧内村、荒町村、東福寺村、清野村、田中村、東寺尾村、平林村) 横長美 一冊 い 六七
文政一一年

作徳米代金請取覚 松代町伝兵衛 中小田切村林蔵他宛 天保二年 横長美 一冊 い 五〇
半折

田地小作証文写 伊勢町伝兵衛 天保三年 美 一冊 い 四一

田畑上納調帳 荒町村・東寺尾村・清野村・東福寺村・東条村北組・東条村南組・田中村・町分・牧内村・平林村・西条村 天保三年 横長半 一冊 い 七〇

(田中村方・町方・荒町方・東条村・西条村・東林村・牧内村・町寺尾村方・西寺尾村・岩野村・土口村・清野村方・東福寺村・小作年貢改覚) 横長美 一冊 い 六七

東条村・荒町村持地田畑絵図面帳下案 菊屋伝兵衛 天保八年 半 一冊 い 七三

御祭礼金・役給金通帳 名主伴之助 八田嘉右衛門内長崎源吾宛 天保八年 横長美 一冊 い 九五
半折

小作年貢滞

御用粉村々滞御未進高寛帳 八田孫左衛門 享保
一四年九月

横長美 一冊 い 三五七

去已年御年貢滞調帳 天保五年

横長半 一冊 い 七三

天保六年七月

1 古川鋪永小作人出金并滞之分取立帳
2 古川鋪永小作人出金并滞取調帳
3 古川鋪永小作人出金并滞之分取集帳

横長半 三冊 い 七三

御年貢年賦金滞調元帳 天保一四年

横長半 一冊 い 七六

願金納減ニ付御年貢方勘定訳

横長半 一冊 い 六五

（枋本組・釜子組・宮井組・納金残り勘定）寛

横長美 一枚 い 一七四

初代金老年上納残り借り（勘定寛） 三四郎・
平助取替 戊年

横長美 一枚 い 三八

（小作年貢と取替金差引勘定寛）

横長半 一冊 い 六四

○

持地小作人年貢滞出入ニ付出訴状下書 訴訟方
眞田領分松代町菊屋伝兵衛 相手方某 寺社奉行宛
天保一二年

半 一冊 い 七六

福岡新田出入書物写（年貢勘定并門屋百姓肩書
改） 弘化五年

美 一冊 い 七五

土口村小作

御拝借金并所々借用金書添帳 土口村助右衛門
八田様宛 享和二年二月

横長半 一冊 い 二六七

亥之御年貢品々差引帳 土口村助左衛門 八田喜
左衛門宛 享和三年

横長美 一冊 い 六五

田畑入上初勘定仕立帳 土口村助左衛門 文化二
年 横長美 一冊 い 六五

当丑之入上初勘定仕立御書上帳 土江村八郎治
八田嘉右衛門宛 文化二年 横長半 一冊 い 六四九

寅年入上初上納人別御書上帳 土口村名主惣藏
八田嘉右衛門 文化四年 横長半 一冊 い 六七九

御持地西小作年貢請取帳（土口村） 文政八年 横長美 一冊 い 七〇

御持地小作年貢取立元帳（土口村分） 文政九
年 横長半 一冊 い 七四

御持地小作年貢勘定一紙 土口村 文政一〇年 横長美 一冊 い 七六

御持地子小作年貢御勘定帳 土口村分 文政一
一 横長半 一冊 い 七五

丑年小作年貢御勘定一紙 土口村 文政一二年 横長美 一冊 い 七七

御持地小作年貢取調帳（土口村） 申年 横長美 一冊 い 七三

土口村御持地高反別小作人調帳 横長美 一冊 い 六五

矢代村小作

源左衛門分水入帳 矢代村柿崎源左衛門 八田孫
左衛門宛 享和元年 横長美 一冊 い 六三

源左衛門分水入帳 横長美 一冊 い 六六

寛（小作入初） 御役代柿崎源左衛門 矢代村
享和二文政五年 横長半 一冊 い 六四

矢代村御高辻之内御水帳名左兵衛分水入帳 矢
代村新町組平九郎 享和三年 横長半 一冊 い 六五

矢代村御高辻之内三郎右衛門佐兵衛名寄小作入
帳 平九郎 文化五年 横長美 一冊 い 六八

辰巳兩年御上納并小作入指引御書上帳 矢代村 横長半 一冊 い 七五
役代直八 文化七年

名所沖附小作人別見分覺 矢代村 文化一四年 横長半 一冊 い 七七

矢代村柿崎小作地差引書 天保六年 横長半 合一冊 七三
横長美 (二冊)

生菅村小作

当丑御小作入人別帳 生菅村御役代谷右衛門 八 横長半 一冊 い 六四五
田嘉右衛門御内金七宛 文化二年

御上納金小錢受取帳 生菅村名主佐野右衛門 八 横長美 一冊 い 〇二四
半折 田様役代谷右衛門宛 文化二年

午年御小作年貢取調帳 与三郎 (文化一〇年カ) 横長半 一冊 い 六五四

文化一四年 1年貢小役受取通 生菅村名主久右衛門 文化一

四年 2生菅村分御給所配付 文化一四年

3覚 (八田嘉右衛門勘定 寛政四年) 横長美 一冊 半折

4覚 (森村八郎左衛門酒造道具書上) 横長美 五冊

5生菅村抱地田畑小役入人別帳 文化一四年

6覚 (森村八郎左衛門借蔵ニ付) 松代八田嘉右衛門抱地役代惣左衛門宛

長岡助右衛門小作

八田嘉右衛門殿口合金并小作初代金指出金巻紙 横長半 一冊 い 六七五
長岡助右衛門 文化一三年

八田嘉右衛門殿御分御口合金并初代共差出一紙 横長半 一冊 い 二九四
長岡助右衛門 文政二年正月

八田嘉右衛門殿方口合金取立差出一紙 長岡助 横長半 一冊 い 五六五
右衛門 天保元年一二月

文政二一〇年 1口合金差出一紙 長岡助右衛門 文政二年 横長美 合一冊 い 五六
2口合金差出一紙 長岡助右衛門 文政三年 横長半 七冊

3口合金差出一紙 長岡助右衛門 文政三年

4口合金并小作入上初代共差出一紙 文政五年

5口合金并小作入上初代共差出一紙 文政六年

6口合金并小作入上初代共差出一紙 文政七年

古川敷小作

古川敷御小作御年貢調帳 和平 文政五年 横長半 一冊 い 七〇

文政五年 1古川敷地皆御引揚御手充金并川敷計御引揚御手

充金被下人別 横長半 二冊 い 七三

2古川式小作地差出切人別覺

東寺尾村新堰

古川敷御小作御年貢調帳 文政五年 横長半 一冊 い 七三

東寺尾村新堰御用地高附積帳写 文政元年 横長半 一冊 い 六五九

文政元年 1東寺尾村新堰形式御用地高附積帳 横長半 二冊 い 七二

2東寺尾村新堰形式御用地代金積帳

岩村田小作年貢滯出一件

小作年貢滯出一件

(御勝手向差支ニ付御改革仕法箇条書下書) 九月 半 一冊 い 七三

(岩村田御領主御仕送金御用達之爲取替金取調日記) 文政元・二年 半 一冊 い 七三

御手扣(岩村田一条)	文政二年	半	一冊	い 七五	岩村田宿出向諸雜用御書上 宗弥・良右衛門 天保六年	橫長半	一冊	い 七三
岩村田出張日記 山越韓右衛門	文政二年	半	一冊	い 七五	作徳米滯取調覚(岩村田) 伊勢町伝兵衛 天保一一年	半	一冊	い 七六
卯十月岩村田掛合日記 (文政二年)		半	一冊	い 七五	亥一二月(天保一〇年) 岩村田出向雜用取調帳 市兵衛 丑一〇月(天保二二年)	橫長半	一冊	い 七九
岩村田差引書抜扣(内藤豊後守様御内望月左太夫後閑彦三宛三千兩元利滯返済之爲無尽発起) 文政三年十一月		橫長美	一冊	い 三〇	諸勘定差引帳 角喜元方 (天保年間)	橫長半	一冊	い 九六
岩村田出張掛ヶ口向扣 文政四年		橫長美 半折	一冊	い 七六	飯山小作年貢滯一件			
岩村田一件差引留帳 文政五年		半	一冊	い 七五	御郡方え差出候書取享(関田専之丞口入金、網懸村分出入) 文化九年(天保三年)	半	一冊	い 七〇
岩村田出向雜用 文政五年		橫長半	一冊	い 七四	片倉村依田弥右衛門、比田井文右衛門、東上田村田中佐内、反別帳(質入ニ付) 文化一〇年	半	五冊	い 三二 (袋美)
岩村田御領分飯沼村上丸子村え金子口入滯懸合書留 伊勢町伝兵衛		半	一冊	い 七三	飯山用諸書留・同差引扣・同御城米引請扣 文政八年	橫長美 半折	一冊	い 七五
岩村田出張掛合同扣留 学道 文政六年		橫長美 半折	一冊	い 七〇	飯山辺差引覚(貸付金取調) 文政八年五月	橫長半	一冊	い 三八
桑壳払差引書 文政六年		橫長半	一冊	い 七六	松代町伝兵衛飯山表御役場え願出候願書写(質地濟方滯出入) 八田嘉右衛門奥書 文政一三年	半	一冊	い 三二
岩村田諸向差引調元帳 文政八年		橫長半	一冊	い 七九	天保三年御書類内々写取置(飯山領質地濟方滯一件) 天保三年	半	一冊	い 三五
岩村田差引書 (文政八年力)		橫長美	一冊	い 三二	飯山一件ニ付府一件始末書 天保三年	橫長半	一冊	い 七六
岩村田野沢田野口差引扣 文政九年		半	一冊	い 七四	飯山岩村田懸合ニ付雜用調書 天保三年	橫長半	一冊	い 七六
岩村田出張ニ付日記 文政一〇年		半	一冊	い 九一	飯山岩村田入用覚 八田知則 天保三年	橫長美 半折	一冊	い 七三
岩村田御領分村々作徳米代金請取帳写 天保二年		橫長半	一冊	い 三七	土屋相模守様ち松代町嘉右衛門御呼出之旨江戸表被仰越候御用狀書類其外右一卷書留(飯山資金一件) 天保四年	美	一冊	い 七三
佐久郡塚原村源助対談ニ付作徳米請取方通帳之写 天保三・四年		半	一冊	い 七九				
岩村田出向諸雜用 平兵衛・宗弥 天保六年		橫長半	一冊	い 九四				

今度從公義御呼出ニ付取調覚（飯山領質地濟方
滯一件） 天保四年正月

上（飯山領） 松代町嘉右衛門代孫兵衛 天保四年

今度公義御呼出ニ付取調覚（飯山領） 天保四
年

飯山一件濟寄ニ付江府之書状并礼物取調覚
天保四年

飯山領年賦金滯ニ付掛合書（天保四年）

飯山一件江府御入料調 八田氏内用請取帳 座
間百人（天保四年）已九月

飯山御領蓮村靜間村年賦金無尽金差引帳 天保
六年正月

飯山領口々掛合附込日記（質地濟方滯一件）
對談掛り平兵衛・源兵衛 天保七年

飯山領分村方取極之年賦割合金滯ニ付懸合之始
末書取（天保七年）

飯山初式千五百表勘定帳 御町方懸り合 天保
八年

御物成三千五百俵買入之内飯山領式千五百俵勘
定帳 御町方懸り合 天保八年

飯山買入初取計方始未申上 天保八年

覚（飯山表ニて米穀買入出金割合） 紺屋町名
主長左衛門・肴町名主伊右衛門 伊勢町伝兵衛宛
申十月七日

田野口村小作年貢滯一件

佐久郡田野口村上塚村え掛り質地返濟方作徳粉
滯出入一件ニ付願書扣 松代町訴訟人伝兵衛 天
保七、一〇年

佐久郡田野口村三塚村再訴一件留 天保七年

松代町訴訟人伝兵衛、相手方佐久郡田野口村又
右衛門他、作徳粉代金滯出入願書留 天保七年

社倉御下穀代金年々月割御請印帳（田野口村・
灰原村・沓沢村・大田原村・高野村・輕井沢村
六ヶ村） 天保八年

佐久郡小泉七ヶ村之内小作人初代滯金掛合日記
天保一〇年

松代町訴訟人伝兵衛、相手方佐久郡田野口村又
右衛門他え作徳粉代金滯出入願書留

中野質地一件

文政一二年

- 1 中野表品々諸雜用書上帳
- 2 中野村質地一件出府入料同書立帳 イ印
- 3 中野一件江戸出府雜用帳 ロ印
- 4 出府ニ付諸雜用書立帳 ハ印
- 5 中野一件取調帳 堀田与吉

赤倉湯一件

（赤倉村温泉場貸金返濟貸増金書留帳） 天保
一五年

職人手伝人足覚 赤桑湯や 弘化四年

赤倉一条
1 出府日記 笠井和七 横長美 一冊 い二二五
2 覚日記 笠井和七 半折
3 赤倉出向手扣 横長半 二冊

才木方

殿様御入御内沙汰ニ付東武ニて品々大木相頼候
て御調物取調 文政四年 一綴 い八八八
(袋共)

通船方

運賃諸懸り請取通(米穀・雜運送) 松代船元 横長半 一冊 い六〇
天保七年 半折

金融

預り金利払

金子請取覚帳 みのや茂兵衛 八田孫左衛門宛 横長美 一冊 い九六四
安永四年 半折

覚(元金十五兩利分受取) 文化四年〜文政元年 横長美 一冊 い一〇三〇
半折

御預ヶ金年々利金請取通帳 片山弥友 文化九年 横長美 一冊 い八八九
半折

覚(預金利分請取) 法華寺 八田嘉右衛門宛 横長美 一冊 い二〇八
文化一三・一五年 半折

堀川千吾殿に預金調元帳 文化一三年 横長美 一冊 い九六七
半折

預金利金請取覚 大島永左衛門 八田嘉右衛門宛 横長美 一冊 い二三
文化一四年二月 半折

覚(利金請取) 小山田藤四郎 八田嘉右衛門宛 横長美 一冊 い九四三
文化一四年 半折

金子請取通帳 長谷川善兵衛 八田嘉右衛門宛 横長美 一冊 い九五五
文化一四年 半折

拝借金御預ヶ金差引調帳 文化一五年正月 横長半 一冊 い三八

拝借金御取替金御預ヶ金差引帳 西方 文政二年 横長半 一冊 い三七

御利金上納覚 嘉右衛門 文政二年より 横長美 一冊 い二〇三
半折

通帳(二百兩貸付名儀貸ニ付利息請取) 堀内 横長美 一冊 い九八
千吾 文政三年 半折

覚(和九郎右衛門利足金請取ニ付) 八田嘉 横長美 一冊 い二〇三
左衛門宛 文政三年 半折

金子請取通帳 片山弥友 文政元年 横長美 一冊 い二〇四
半折

利足金請取通帳 片山弥友 文政四年 横長美 一冊 い九八
半折

年賦金請取通 伝右衛門・三四郎 文政四年 横長半 一冊 い二〇七
半折

年賦金請取覚 深美六左衛門 文政四年 横長美 一冊 い二〇六
半折

御利足収覚 文政七年〜天保五年 横長美 一冊 い二〇三
半折

利金請取通帳 八田嘉兵衛 小山田重大夫宛 文 横長半 一冊 い二〇三
政九年 半折

中村原民年賦金受取帳 深見甚十郎 文政一〇年 横長美 一冊 い九四〇
半折

御預金覚(内題御預ヶ元金覚) 文政一三年 横長美 一冊 い二六八
半折

御預ヶ金差引帳 関田屋慶左衛門母 八田嘉右衛 横長美 一冊 い七二
門宛 天保二年〜天保六年 半折

利足請取通 宮野端助 八田嘉助宛 天保三年 横長美 一冊 い九三
半折

御利足金請取通 善光寺茂助 八田嘉右衛門内長 崎源吾宛 天保七年	横長美 半折	一冊	い 〇九
御利足御下ヶ皆請取通 中町相之助 天保七年	横長半 半折	一冊	い 八八
嘉助様御預ヶ金差引之分宝昌寺様分 子十二月 調	横長半	一冊	い 一六三
宝昌寺之方、源五兵衛之方（預ヶ金と出方差引 勘定）	横長美	一冊	い 一七九
子年拝借金并御預ヶ金御取替金調帳	横長半	一冊	い 三三三
（樋口伊預ヶ金覚他一件書留）	横長美 半折	一冊	い 九五三
（預ヶ金覚）（八田知則カ） 酉六月	横長美 半折	一冊	い 九三〇
口入金月割請取帳 岡川平十郎内井田与三郎 森 村和七・民右衛門・谷茂宛	横長美 半折	一冊	い 九六八 （袋共）
年賦金請取御通 現金屋祖吉 水井周礼宛 明治 九年	横長美 半折	一冊	い 一〇五
貸付金			
貸附金覚帳（小野様御分） 口入嘉兵衛 天明五 年	横長半	一冊	い 三三七
（坂本忠太年賦金勘定覚） 寛政一二・一三年	横長半	二冊	い 三〇六
（諸方貸金返済勘定覚） 文化八年	横長半	一冊	い 三〇九
関田庄助え取替金他同人親類中へ請取覚 文化 一四年四月	横長半 半	一冊	い 二三四
（千田村兵衛門他貸金年賦済覚） 文化・文政年 間	横長半	一冊	い 七九
借用金返済方并内証向惣取調覚 文政元年一月 改	横長半	一冊	い 二九八

覚（年賦金入上） 文政二年五月	横長半	一冊	い 二九七
年賦金預通 伊勢町伝兵衛 森村八郎左衛門殿宛 文政二年二月	横長半 半	一冊	い 二九六
覚（貸金年賦請取） 八田嘉右衛内浦野忠七 伊 勢町惣八 文政三年	横長美	一冊	い 八八三
欠落金左衛門、同断佐七、潰平内拝借他借金元 帳 新町村 文政五年	半	一冊	い 八八
松代・田中借財取調帳 弥津西町落合作左衛門 天保四年一〇月	横長半	一冊	い 二八四
御貸下金有所調帳 八田嘉右衛門他 天保五年	横長美	一冊	い 七七
御貸金下金上納請取通 宮沢彦左衛門 天保八年	横長美 半折	一冊	い 九三九
（貸金、助請金、預り元金、趣意金、地代等、 覚） 天保八・九年	横長半	一冊	い 七四
御内借金其外借財金取調帳 沓野村助治郎 天保 九年八月	横長美	一冊	い 二六八
（片桐重之助殿元利ノ五百六兩内、金五拾兩受 取覚） 天保一二年	横長美	一冊	い 一八七
辰三郎殿え口入金之調 弘化四年	横長半	一冊	い 三〇
拝借并他借之調 嘉永五年	横長半	一冊	い 三六九
寅年利足払并年賦金渡調帳 安政元年二月	横長半	一冊	い 二七三
（拝借内借金、他借等嘆願） 安政六年	横長美	一冊	い 三六八
寅一二月辰四月迄御返納金元利調帳	横長半	一冊	い 一六二
御貸下之方え相廻候金差引調 申酉年	横長半	一冊	い 一六三

貸出金之内申年元利取立金調・申年預り金・申年取計貸出金・利金渡元金返済共・酒造方・酒店、勘定書留

横長美 一冊 い 一七

御貸賞帳（新屋へ貸）

横長半 一冊 い 二九

（貸金其外勘定寛）

横長美 一冊 い 六三

寛（諸方へ貸金内年賦金請取）

横長美 一冊 い 九五

（諸方年賦金勘定残書上寛） 坂本忠太 午七月
一三日

横長半 一冊 い 一五

岡野様子暮取替辻 寅年

横長半 一冊 い 一五

寛（年賦金返済并滞人別） 坂本常左衛門 卯二月

横長美 一冊 い 五二

寛（丑暮借用金并名面） 東條村仙助 八田孫左衛門宛 子一二月

横長半 一冊 い 一五

（拝借金利金勘定寛）

横長半 一冊 い 一七

（拝金返済分勘定寛）

横長半 一冊 い 一三

午暮金子取立寛

横長半 一冊 い 一五

（諸向貸金滞勘定寛）

横長半 一冊 い 一三

（貸付金之内請取、年貢上納金利足金年賦金上納留書帳） 巳三月初

横長美 一冊 い 六二

貸付金調

御借出金未暮取立寛 長岡銀右衛門 八田孫左衛門宛 寛政二年

横長半 一冊 い 三〇

銀右衛門中借証文之分寛 長岡銀右衛門 卯二月

横長半 一冊 い 二七

（辰暮借金差引勘定寛） 長岡銀右衛門 八田孫左衛門宛 辰一二月

横長半 一冊 い 一五

已暮差引一紙寛 長岡銀右衛門 八田孫左衛門宛 巳暮（二月二七日）

横長半 一冊 い 一五

寛（貸附方滞明細書上） 文化一〇年

横長半 一冊 い 五八

（文化一三年より十年賦約束にて貸金寛）（文化一三三年）

横長半 一冊 い 三三

文化一三年諸方懸合手扣（年賦金）（文化一三年）

横長半 一冊 い 三八

借出金元利取入・預金元利返済方・無尽金懸出取入調 八田嘉右衛門

横長美 一冊 い 六五

御口入金之内滞金調 古帳より引訳 文化一三年

横長半 一冊 い 九二

貸付金返済滞

（相沢貞藏商売仕入金融通之處返済無之、家作引当ニ付借用金証文写付置） 相沢貞藏 増田徳左衛門宛／増田徳左衛門役代弥吉 木町惣兵衛宛 辰（弘化元年）〔文政一三（天保九年）〕

半 一冊 い 八六

（相沢貞藏酒造仕入金借入返済滞一条、八田喜兵衛書留）

半 一冊 い 八七

乍恐以書付御詮儀申上候（家屋鋪引当金子借用仕、返済滞之訴ニ付） 紙屋町久兵衛 松木東様宛 嘉永五年

美 一冊 い 八七

無 尽

寛（太郎右衛門方より請取無尽金帳面 勘定仕法請合） いせ町伊兵衛 明和元年八月

横長美 一冊 い 四二

松代御領中八田嘉左衛門殿無尽之懸金年々請取通 文化四（一三年）

横長美 一冊 い 八四

無尽帳書拔 (喜惣七引受無尽)	文化六年	横長美	一冊	い三四	無尽取入掛出差引帳 (町内無尽金取入他)	文政二年	横長半	一冊	い三三		
木曾七発起頼母子御掛金受取覚	堀内五十治	横長美	一冊	い三六	桑津村幾之助無尽掛戻シ金請取帳	喬井屋伝右衛門・大和屋三四郎	文政三年三月	横長美	一冊	い三三	
八田嘉右衛門宛	文化六年十一月二三日	折			無尽懸出取入扣帳	末ニ金銀出入記置	八田知義	文政二年	半折	一冊	い八六
覚 (無尽掛金預ケ金)	文化七年	横長美	一冊	い三三	無尽取入并掛出差引帳	文政三年二月改	横長半	一冊	い三六〇		
鏡屋町大次郎諸差引無尽一卷	文化八年	半折	一冊	い九〇	内規定頼母敷添帳	芝津村幾之助発起	文政三年三月	横長美	一冊	い三六三	
頼母子御掛金受取之覚	堀内五十次 八田嘉右衛門宛	半折	一冊	い三七	八田競殿無尽掛金請取帳	馬場弥三郎・岡野陽之助	八田嘉助宛	文政三年十二月	横長半	一冊	い三六
文化八年十一月					(無尽) 差引書	喜福寺発起	文政三年	横長美	一冊	い三六	
無尽金年々請取通幾之助引受	発起清水斧右衛門	半折	一冊	い三五	覚 (大和屋三四郎無尽)	文政四年四月	横長美	一冊	い三六		
八田嘉右衛門宛	文化九年申一〇月	半折	一冊	い三九	田中井右衛門在命中発起無尽取調一紙	文政五年正月	横長美	一冊	い三九		
無尽金請取帳	片桐元吉	半折	一冊	い三九	頼母子御掛金帳	発起人大和屋嘉兵衛	柿崎伝兵衛様宛	文政一年	半折	一冊	い七四
覚 (柿崎源左衛門発起)	無尽掛金請取	文化	一冊	い三六	融通金規定帳	発起人大和屋嘉兵衛	文政一年	美	一冊	い七六	
無尽金御預利分請取帳	早田十左衛門・早田清右衛門	半折	一冊	い三三	産物無尽之節手元出入差引覚	八田嘉右衛門	(天保二) 卯年	横長美	一冊	い五七	
八田嘉右衛門宛	文化一三年子四月	半折	一冊	い三三	無尽金請払元帳	天保六年一二月	横長半	一冊	い二七		
関田庄助之御取替金并望月權之進出金無尽引請、	本内惣右衛門無尽出金引請	請取通	八田嘉右衛門	長谷川源四郎宛	文化一四年	諸方無尽懸出滞受取控 (小手形貼込)	文化一四年	半折	一冊	い三三	
堀内千五郎殿方無尽之扣	文化一五年	半折	一冊	い三四	無尽取不足之分書拔、紡産物方ニ付和七え渡金、赤倉一卷ニ付渡金扣、片桐元吉殿所々仕送書拔、辰三郎之米代金無尽之貸方ニ付渡金	知茂	文化一五年正月	半折	一冊	い三三	
丑年無尽取入懸出差引帳	(文政元年)	横長半	一冊	い五五	無尽金ニ付品々書類	八田知則	嘉永三年	横長半	五冊	い二五五	

共益融通講請取帳 会主山越新八郎・金見弥高 伊勢町豊田伝兵衛 明治一五年	木板	一枚	二五四
酉暮金銭出入差引寛	横長半	一冊	一三四
(無尽勘定寛)	横長美 飯一冊	い	二〇〇
卯極月寛(上徳間村・保科村・上小田村・矢代村他) 辰正月	横長美	一冊	二〇三
元利 三千八百貳拾九兩貳分返済分并残分勘定 寛并無尽差引寛	横長美	一冊	二〇七
借用金預金寛并右引当無尽・持地・家屋敷・家財・家具寛	横長美	一冊	二〇八
無尽金為取通帳 八田嘉兵衛 堀内千五郎宛	横長半 折	一冊	二一〇
(無尽掛金勘定寛)	横長半	一冊	二一七
(無尽掛金勘定寛) 幾之助引受 申十月	横長美	一冊	二一九
(月々受取金寛) 丑年	横長美	一枚	二四〇
(百人口無尽仕法)	横長美	一冊	二四二
(已・午 無尽掛金寛)	横長美	一冊	二四三
杉山町無尽差引	横長半	一冊	二四四
(無尽掛金帳) 寅年	横長半	一冊	二四五
無尽之寛 辰年・未年	横長美	一冊	二四六
佐久間修理殿御無尽差引 戌年	横長美	一冊	二四七
発起頼母子ニ付下物見飾付并献立	横長美	一冊	二四八
善光寺良性院金百五拾兩頼母敷会合之節御献立書	横長美	一冊	二四九
無尽割連衆十二人	横長美	一冊	二五〇
無尽掛もち調帳	横長半	一冊	二五一
子年無尽掛金并取入調帳 子年	横長半	一冊	二五二
申十月寛(無尽掛金) 申年	横長半	一冊	二五三
寛(無尽発起ニ付私之見込利払辻)	横長半	一冊	二五三
寛(無尽発起利払見込) 酉正月	横長半	一冊	二五四
(五千兩借用之節無尽ニて返済仕法) 申二月 廿七日調	横長美	一冊	二五七
(坂原氏助成無尽取掛寛) 酉五月・戌五月	横長美 半折	一冊	二九六
広田筑後・岩出六右衛門無尽一条			
勢州山田一計・佐藤伊兵衛(広田筑後無尽一条) 明和六年	半	一冊	七五
勢州普請諸入用算用并勤化寄金帳 広田筑後代 判岩出六右衛門 明和六年	横長美	一冊	七六
丑八月改借り入金寛(岩出六右衛門関係) 丑 八月(明和六年)	横長美	一冊	六五
広田筑後殿々金銭差引帳 明和八年	横長美	一冊	六九
岩出六右衛門差出候証文写(伊勢国岩出六右衛門 と広田筑後無尽掛金出入松代八田嘉左衛門掛 り合ニて訴訟) 明和九年	美	一冊	六三
勢州広田家普請方口入施し寛・同出入一件入用 取扱金寛 明和九年	美	一冊	六四
取調書面(関田莊助等三人無尽) 明和九年	横長半	一冊	六六

(岩出六右衛門無尽掛合一条留書) (明和九年)	横長半	一冊	い 六六七
覚(岩出六右衛門・広田筑後無尽掛合一条) (明和九年)	横長美	一冊	い 六八八
覚(岩出六右衛門・広田筑後無尽掛合一条) (明和九年)	横長美	一冊	い 六八九
覚(岩出六右衛門・広田筑後無尽掛合一条) (明和九年)	横長美	一冊	い 六九〇
覚(岩出六右衛門・広田筑後無尽掛合一条) (明和九年)	横長美	一冊	い 六九二
(岩出六右衛門・広田筑後無尽掛合一条) (明和九年)	横長半	一冊	い 六九三
(岩出六右衛門・広田筑後無尽掛合一条) (明和九年)	横長半	一冊	い 六九四
広田筑後借金相調候一紙帳 明和九年	横長美	一冊	い 六九五
口上(岩出六右衛門と広田筑後無尽掛合一条) (明和九年)	横長美	一冊	い 六九六
(岩出六右衛門と広田筑後無尽一条ニ付八田嘉左衛門他二人宛口上并返答) (明和九年)	横長美	一冊	い 六九七
御使之申入口上(岩出六右衛門と広田筑後無尽掛合一条) (明和九年)	横長美	一冊	い 六九八
(岩出六右衛門と広田筑後無尽掛合ニ付八田孫左衛門宛内々書) (明和九年)	横長美	一冊	い 六九九
返答書(八田孫左衛門他二人 岩出六右衛門宛) (明和九年)	横長美	一冊	い 七〇〇
飛脚之者口書覚(岩出六右衛門と広田筑後無尽掛合一条) (明和九年)	横長半	一冊	い 七〇一

支度いたし相認候帳面扣(岩出六右衛門と広田筑後無尽掛合一条) (明和九年)	横長美	一冊	い 七〇四
岩出六右衛門寺社御奉行所及出訴候節、一件内濟ニ付懸り合之者連印書付写 明和九年	半	一冊	い 七〇七
勢州山田御師広田筑後普請引請ニ付借金為助ヶ金、信州松代御城下町いせ町惣右衛門伊兵衛世話人ニ相立、且中之永代神楽講相願候金子、不束ニ付吟味願 岩出六右衛門 (明和九年)	横長半	一冊	い 七〇八
物成収納渡帳 広田筑後代吉村嘉右衛門差出八田孫左衛門宛 (安永三年) 午正月	横長美 大半折	一冊	い 七〇三
(広田筑後) 来丑年六十ヶ年之間格外儉約定 (天明元年カ)	横長美	一冊	い 七〇三
(懸り亭主方草間一路・字敷元之丞宛、御勘定所吟味内報)	横長半 半折	一冊	い 八三九
進物覚 (宝暦頃)	横長半	一冊	い 八九三
(安兵衛殿金子出入ニ付諸方頼込候え共江戸ニて内済根証文不調之由指圖書状下書) 岩出六右衛門 八田孫左衛門他二人宛 亥八月	横長美	一冊	い 三七
覚(岩出六右衛門普請金借用口入無抛私方にて相払申他一件勘定)	横長半	一冊	い 三三五
皆神山無尽			
皆神山仁王門再建勸化帳(木版門尺寸法および門見取図付) 世話人松代伊勢町八田伝兵衛 文化五年	美大	一冊	い 八七四
群神山仁王門建立ニ付金取替諸色帳面(袋書) 1 皆神山仁王門御普請入用金御内借請取通 2 皆神山仁王門諸色入用書上帳 菊屋伊七・紙屋長五郎 菊屋伝兵衛宛 文化一〇・一一年	横長美 半折 横長半	一冊	い 九〇六

家屋敷入上請取通 皆神山和合院内納所 文政元年	横長美 半折	一冊 い二四三	調物書拔帳（茶道具他） 文政八年七月	横長半	一冊 い二九一
曾我奥様発起無尽（勘定覚） 嘉永五年暮	横長半	一冊 い二六九	諸通書拔帳 文政八年七月	横長半	一冊 い二九三
御寄附金利足受取覚 皆神山納所	横長美 半折	一冊 い二四三	御合力金請取元帳 師岡源兵衛 文政一二年	横長美 半折	一冊 い二〇七
家中侍借財勝手向立直し			覚（家財道具書上） 文政一二年	横長半	一冊 い二九〇
友野八三郎様御物成并御小役御勘定目録 田之口村 安永五・六・七年	横長美	一綴 い六七〇 （三冊）	寅年暮方積り書 左右衛門扣 文政一三年	横長半	一冊 い二六九
覚佐久間様御分（道具小間物）（天明元年カ） 開五月	横長美 半折	一冊 い八九四	金銀出入扣之帳 伊東扣 天保二年	横長美 半折	一冊 い〇三八
友野園八様御隠居様年貢并小役目録 南堀村御藏本久兵衛 寛政二年	横長半	一冊 い六六八	御恩借金差引帳 関田守之丞 八田嘉右衛門宛 天保二年	横長美 半折	一冊 い〇四〇
源八殿御勝手向片付覚（本知百五拾石） 文化二年	横長半	一冊 い三〇五	御家中融通米取計帳 八田嘉右衛門 天保七年	横長美	一冊 い七三
月々請取覚（式朱） 文化三年	横長半 半折	一冊 い九四	借財并暮向方取調帳（八田慶助カ） 天保八年正月	横長半	一冊 い二六三
小山田公え年々御取替金請取帳 小林少助 八田嘉右衛門宛 文化四年	横長美 半折	一冊 い二〇六	八田慶助殿差引并印書 田中万作 八田嘉助宛 天保九年三月	一綴 い二六三 （二冊一通） （袋共）	
暮方万端割合積書覚 文化四年	横長美	一冊 い三〇四	勝手取調書（本知五四石御扶持方一〇人扶持） 八田慶助 天保九年四月	横長半	一冊 い二六
口入金引当初代（通帳） 門田庄助 森村宛 文化一〇年	横長美 半折	一冊 い九八	御知行所物成小役并頼母敷無尽金手段金等を以 暮方諸入用借財片付取計方調帳（御知行本知百石） 天保九年三月	横長半	一冊 い二八
口入金引当初代請取通 関田庄助 森村宛 文化一三年	横長美 半折	一冊 い九九	勝手暮方積り覚 寛直 天保一二年二月	横長半	一冊 い二四
内藤豊後守様御仕送金割合帳 真田彈正大弼内 八田嘉右衛門 文化一五年	横長美	一冊 い七九三	（姫岡源兵衛他貸金覚帳） 明治四一七年	横長美	一冊 い五五
師岡治助殿御内証向御取調書類 文政五年閏正月	横長半	一冊 い二九三	暮方并修覆金積立帳 丑九月調	横長美	一冊 い五六
			覚（知行高式百五拾石收納并小役借金方返済差引勘定）	横長半	一冊 い五三

辰三郎様御暮方几積り覚（本知二百石）
横長半 一冊 い 五三
覚（諸方滞金） 横長半 一冊 い 五三

暮方入料積立帳（貳百俵）
横長半 一冊 い 五三

松木岩五郎様御知行納帳（郡村外四ヶ村）
横長半 一冊 い 五三
左衛門 八田嘉助宛 已二月

松木岩五郎様御知行小役納帳 八左衛門 已一月
横長半 一冊 い 六三

（松木束御用替御預所郡奉行被仰付 日記覚）
横長美 一冊 い 九四九

小遣帳 笠井氏 寅極月
横長美 一冊 い 九三

請取通（嘉三郎殿方合力金孫左衛門殿方合力金）
横長美 一冊 い 〇〇一
勘五郎 孫左衛門・嘉三郎宛

御取替物覚（刀剣）質方 子春
横長美 一冊 い 〇二三

申暮調帳（知行所も飯米その他引当并借財方明細）
横長半 一冊 い 〇二七

（家中諸士給初俵代金割渡覚）
横長美 一冊 い 五六二

税費納帳 柿沼鷲太郎 明治一三年
横長美 一冊 い 九九六

○山越市之丞立直し一件

日々金子請取通帳（小遣・盆中入料・塩糒代・薪代他） 文化四年
横長半 一冊 い 九三四

小遣品々請取通 山越市之丞 文化五年
横長半 一冊 い 九三五

月々小遣金請取通帳 山越 文化六年
横長半 一冊 い 〇三七

伊勢町分月々ひかへ小遣品々金請取帳（山越市之丞カ） 文化八年
横長半 一冊 い 九四五

山越市之丞様御年貢御小役目録覚帳 三輪村 文化一〇年
横長半 一冊 い 七三

小遣金請取通帳 山越市之丞 文政八年
横長半 一冊 い 四一

小遣金請取帳（他ニ味噌仕入代・法事入用・女給金等）山越市之丞 文政一〇年
横長半 一冊 い 〇二三

御取替物日記（山越市之丞カ） 天保二年
横長美 一冊 い 九四七

勝手向調帳（山越市之丞カ） 丑年
横長半 一冊 い 九六

出張

出張

大阪にて調物覚（釜・鍋値段并運賃） 寛政一二年
横長美 一冊 い 二六

松手越中守様御領分越後柏崎え米穀御引合之儀ニ付御内用被仰付罷越候節之一巻（袋書） 八田知義
横長半 二冊 い 七九

- 1（右記同表題）
2 御道中御小遣帳 全三郎
3 柏崎出張御用一件書類一綴
4 米穀御道上ニ付落合氏之懸合書状一綴

諸方出向雑用金御中借通帳 源吉・良左衛門・宗弥 天保七年
横長美 一冊 い 八四

江戸道中日記 松代家中八田慎藏内玉井市兵衛（天保一二年カ）子年
横長美 一冊 い 八六

宿々駄賃帳 真田信濃守内八田喜助率領片桐庫之助 嘉永四年
横長美 一冊 い 七二

江府往来日記 信州松代町菊屋伝兵衛 嘉永五年
横長美 一冊 い 七五

已秋京都入日記

伊勢屋茂兵衛 八田佐助宛

横長半 一綴 い 五七
(八冊袋共)

1 染物入日記

2 入日記

3 品書上

4 染物入日記

5 入日記

6 入日記

7 入日記

8 染物入日記

寛(小布施町茶代、小遣、駕籠賃他、逗留ニ付金子受取払) 太右衛門 申年三月二六日、四月一日

横長半 一冊 い 五〇

高崎布袋屋手代莊五郎午三月二三日、四月朔月迄滞留中賄品々代取調覚 午年

横長美 一冊 い 七

(五月分江戸入り請払・買物覚)

横長半 一冊 い 二九

三門宿え御廻り御道具(品々覚)

横長半 一冊 い 二九

(酒肴代、旅籠代勘定覚) 莊助・忠清・慎蔵他

横長半 一冊 い 二三

上田表え御出ニ付往返御雜用取調帳 市兵衛 丑二月一七日

横長半 一冊 い 四

宿借用分(勘定覚) 戌年

横長半 一冊 い 二七

金銭穀物請払

請払勘定覚

辰之春差引勘定書 伊勢屋茂兵衛 八田孫左衛門・兵助宛 明和九年七月

横長美 一冊 い 三八
半折

当座日記(金銭) 文政三・四年

横長美 一冊 い 五三
半折

金銭請払日記 惣元方 文政一一年

横長美 一冊 い 六三

金銭請払仮帳 元方 天保八年

横長美 一冊 い 八九

御中借金上納請取通 天保九年

横長美 一冊 い 八四
半折

(殿様え御礼銭献上他、錢銀払日帳) 天保一〇年正月朔、一六日

横長半 一冊 い 二〇

天保十年金銀差引扣(諸方出入金) 天保一〇年

横長半 一冊 い 二七

御引替銀請払帳 仁右衛門 三右衛門 吉郎兵衛 天保一〇年

横長半 一冊 い 二七

去戌年中横鹿染御売入請払帳 いせ宮惣右衛門他 天保一〇年二月

横長半 一冊 い 二九

書留帳(三百六拾九兩貳朱諸方え勘定内訳) 天保一二年正月

横長半 一冊 い 二五

勘定下調帳 辰一二月(安政三年カ)

横長美 一冊 い 八九
半折

(百口諸勘定覚)

横長半 一冊 い 二〇

(勘定覚) 丑年

横長半 一綴 い 二六

(武左衛門他勘定覚) 丑年

横長美 一綴 い 二九

請払帳差引并月々払金ノ高 未二二月

横長美 一冊 い 二一

(拵物払残金ノ高午年証文相極其他大阪行費用并無尽憑金) 午年

横長美 一冊 い 一八

芝町え金銭相渡ス覚 子ノ丑年

横長美 一冊 い 一四

(未申諸勘定覚)

横長美 一冊 い 一三

(申酉請取勘定覚)

横長美 一冊 い 一三

(諸向身入、向々附届、給金、衣服小間物并品々入料書出)〔仕入帳面紙背利用〕
横長美 一冊 い 一九六

(戌差引残御渡過之分他勘定寛) 戌年
横長美 一冊 い 一九九

申一〇月亀屋清吉上納(勘定寛) (酉) 八月一七日
横長美 飯一冊 い 二〇四

諸勘定寛 信州松代中町御宿長崎屋新三郎差出
横長美 飯一冊 い 二〇五
菊屋伝兵衛・友吉宛 九月四日

(正月より二月迄出金帳)
横長美 一冊 い 三四

(諸方二五口取引日記帳) (竹箋見出し付)
横長美 一冊 い 三五
子・丑年(天保二・一二年)

寛政三年多年より瀬原田村分(勘定寛) 馬場丁丑暮調 伊勢町様宛
横長美 一冊 い 三六

ミなどや吉左衛門へ渡品々寛 八月一五日
横長半 一冊 い 二五
横長美 半折

金銭受払帳 子年七月
横長美 一冊 い 八四
半折

* (給金・現米・味噌支給并鉄吹入用勘定寛)

出入勘定帳 勝手方 明治三年
横長美 合一冊 い 八五
横長半

(丁子屋喜三郎諸品勘定寛) 八田様御内宛 (明治初年) 一二月二七日
横長半 一冊 い 一四二

木町伊勢町差引帳

木町伊勢町差引元帳 天明五年一寛政九年
横長美 半折 一冊 い 二〇〇

天保六年より同七年迄差引帳御廻被成候帳面丸写
横長美 一冊 い 二三
天保七年

(入金・出金勘定差引寛) 一二月一日より正月一八日
横長美 一冊 い 三三

木町分取入并払方差引調帳

伊勢町木町丑暮指引目録 丑年
横長半 一冊 い 五五
横長美 一冊 い 二〇二

店方え下金・上納金

寛(有金・納金・礼金・納代金) 午年四月
横長半 一冊 い 一五四
横長美

別上納物(布、利金、中借分、年貢他)
横長美 一冊 い 三三四

金銭請取

(金子請取通帳) きく屋惣兵衛他 正月一四日
横長半 一冊 い 一三七
横長美

天保卯年一二月朔日当座留
横長半 一冊 い 一四〇

金銭払方

文化七年七月一〇日より御払方人別 文化七年一三日
横長半 一冊 い 三二

雑穀

諸穀払方之寛扣 八田知義 天明八年六月七日
横長半 一冊 い 三三
横折 美四半

大麦請取通 菊屋六右衛門 質屋友八宛
横長美 半折 一冊 い 二〇〇
横長半

穀物請払寛(雛形)
横長半 一冊 い 三三

売掛金滞

北田清左衛門一件調留帳(清左衛門病死ニ付売掛取調、雪駄他) 巳八月
横長美 半折 一冊 い 八六

賄

諸品通帳（家計）

覚（内方諸色入用覚）	安永八〜九年	横長美 半折	一冊	い	九六三
通帳（白米水油酒とうふ溜り蒲団夜着）	こく や市左衛門 寛政一二年	横長美 半折	一冊	い	九七四
巻駄御通帳	八百屋儀右衛門 八田嘉右衛門宛	横長美 半折	一冊	い	九七五
当座通帳（長芋、こんにゃく、ひじき、かたひら、しいたけ、すみ）	いせや太七 八田孫左衛門宛 享和三年	横長美 半折	一冊	い	九七六
豆腐御通帳	鍛冶町幸吉 金七宛 享和三年	横長半 半折	一冊	い	九七七
御祭礼金役給金請取通	名主惣八郎 天保七年	横長半 半折	一冊	い	九七八
豆腐御通帳	木町松屋音松 八田喜右衛門宛 文化一二年	横長半	一冊	い	九七九
諸色御通帳	菊屋伊七（ひしゃく、四挺もの、八挺もの、ぬり箱他）伊勢町御茶之間宛 文化二三年	横長美 半折	一冊	い	九八三
諸色御通帳	お茶之間宛 文政六年	横長美	一冊	い	九八四
諸色御通帳（小間物）	菊屋伊七 文政一〇年	横長美 半折	一冊	い	九八六
飯米通帳	竹山町 文政一二年	横長美 半折	一冊	い	九八五
水油御通帳	酒店（裏表紙）御茶之間 文政一一年七月	横長美 半折	一冊	い	五八三
飯米請取通	片山町市川友八 伊勢町浅野忠七宛 天保二年	横長美 半折	一冊	い	八九五

品々入用覚	天保四年正月〜八月	横長半	一冊	い	三三
青物御通帳	湊屋吉左衛門 八田様内長崎源吾宛 天保七年	横長美 半折	一冊	い	九八九
御内用白米請取通	御賄所八田嘉右衛門 天保七年	横長半 半折	一冊	い	八九九
金錢請取通（助成金）	八田辰三郎 八田喜助宛 天保七〜九年	横長美 半折	一冊	い	九五
現金御通帳	江戸屋金作小間物 きくや伝兵衛宛 天保一〇年	横長美 半折	一冊	い	九六七
請色御通帳（雜貨）	鏡屋音吉 御本店宛 天保一〇年	横長美 半折	一冊	い	九八八
緞物御通帳	鍛冶屋藤吉 菊屋伝兵衛宛 天保一〇年	横長美 半折	一冊	い	九八九
覚（食器類）	天保一二年	横長美 半折	一冊	い	九八一
眞木通帳	菊屋伝兵衛 東条村才治宛 天保一三年	横長半 半折	一冊	い	九八三
仕立物御通	元治二〜慶応四年	横長美 半折	一冊	い	八八三
当座御通帳（晒布外）	亥四月	横長美	一冊	い	五〇六
九月十日市にて清水屋善兵衛殿買取候分（袖留他）御書上 中清		横長美	一冊	い	一七六
（台所方諸品勘定覚）		横長美	一冊	い	一四
（月毎白米上納引合帳）		横長半	一冊	い	三三
諸色覚日記（白米・味噌他諸方遣覚、小遣覚他）		横長美	一冊	い	五三
諸方借方覚		横長半	一冊	い	五八

(眞藁、大根葉、漬大根、大根等おそなえ物、他日々食事献立) 横長半 一冊 い 八三七

諸品御通帳(肴、酒)弓ミ助治郎 松代旦那様宛 横長美 一冊 い 九九九

手元覚帳(人手間 小遣分・米) 横長美 一冊 い 八八五

御通帳(御銭茶所) 会津屋宇兵衛 八田様宛 明治七年 横長美 一冊 い 九九五

御通記(米味噌眞木炭油溜り小豆茶酒その他) 角店養田屋佐七 松代町松木様宛 明治一五年 横長美 一冊 い 九九七

(反物仕立代書留) 横長美 一冊 い 一〇二〇

手本品々控帳(人手間、角店買物、ズボンシャツ仕立代他) 横長美 一冊 い 一〇四六

(米請取覚) 横長美 一冊 い 九四六

棚 卸

宝歴一一年巳春未之春迄内方棚卸目録 横長美 一冊 い 五三七

宝歴一一年巳二月同一年午二月迄馬場町指引 横長美 一冊 い 五三八

宝歴一三末春同一年申之春迄内方棚卸目録 横長美 一冊 い 五三九

宝歴一四申之春同一年酉之春迄伊勢町内方棚卸目録 横長美 一冊 い 五四〇

明和二酉春同一年戌春迄内方棚卸目録 横長美 一冊 い 五四一

明和五年子之春同一年丑之春迄内方(棚卸)勘定 横長美 一冊 い 五四二

明和二年酉之春同一年子之春迄伊勢町内方棚卸目録 横長美 一冊 い 五四三

文化四年丁卯五月内方調扣 横長半 一冊 い 五四四

文化六年巳巳内方棚卸調元帳 横長半 一冊 い 五四五

文化八年辛未二月内方棚卸調下案 横長美 一冊 い 五四六

文化九年壬申二月同一年癸酉三月迄内方棚卸調 横長美 一冊 い 五四七

文化一〇年癸卯三月同一年戊戌五月迄内方棚卸調扣 横長半 一冊 い 五四八

文化一一年戊戌五月同一年三子四月迄内方棚卸調扣 横長半 一冊 い 五四七

丑春内方棚卸勘定目録 横長半 一冊 い 五四一

丑春分内方棚卸勘定目録 横長美 一冊 い 五四三

(去巳年分棚卸勘定、不勘定ニ付追々相調可申覚) 横長美 一冊 い 五四五

嘉永六年正月 横長半 合一冊 い 三七二

1有代品物并貸分御書上帳 金兵衛

2雑用御書上帳 金兵衛

3棚卸御勘定一紙 金兵衛

日記・控留

當座万日記扣(中借・年貢・家賃・家賃・地代他二〇口紙箋見出し付) 横長半 一冊 い 三七七

御留守中覚日記 徳寛 横長美 一冊 い 九三七

手 控

(家中侍、妾を妻に仕度願八件書留) 安永六 半 一冊 い 八七〇

穿鑿物書技帳(貸借各種)	文政三年	横長美 半折	一冊	い 九六六
松代県布告第二号写(眞田幸民前書并賞典藩債 騷擾事件ニ付口論)	明治四年	美	一冊	い 八七三
(金拾兩五分利・七分利・八分利・一割利・壹 割貳分利・壹割三分利・一割五分利・貳割利付 年賦割早見表)		横長半 半折	一冊	い 九五四
(駄賃・酒直段・八田家累代御目見年月・名言 等書留)		横長半 四半折	一冊	い 〇三
(道中触写)		半	一冊	い 八五
極密手扣 (稲荷山遊行一条、富作家作一条)		横長半 半折	一冊	い 八九
(紙背仕立帳面、ただし未書込)		半	一冊	い 八六
殿様湧泉亭御入一条				
湧泉寺御入一条	文政元年七月	横長半	七冊	い 四四
1 御出先				
2 道具附				
3 殿様湧泉亭御入ニ付道具調帳				
4 道具附				
5 殿様湧泉亭え御入ニ付道具調帳				
6 田町湧泉亭御入ニ付諸事扣				
7 御膳所				
湧泉亭殿様御入之節諸色扣	文政二年四月	横長美	一冊	い 四五
殿様御野掛ニて被為入ニ付(書留)	文政三年	横長美	一冊	い 四六
殿様御入之節諸色扣帳	八田知義 文政四年四月	横長美	一冊	い 四七
湧泉亭え御入ニ付諸事調扣	文政五年	横長半	一冊	い 四六
田町抱屋鋪殿様東条村え御野掛被仰出候て被為 入候節諸色扣帳		横長半	一冊	い 四六

儀 礼				
為 知 帳				
八田鉄次郎喜茲 宝曆六年九月		横長半	合三冊	い 四〇二
1 御目見御見立御察付				
2 献上(配付人付)				
3 (祝儀配付人付)				
祐善様御病氣御家中御寺方町在為知	八田鉄治 宝曆八年七月	横長美	一冊	い 四〇三
元昭并名改為知帳	八田孫左衛門 宝曆八年十一月	横長半	一冊	い 四〇六
御町年寄役被仰付ニ付為知覚	(八田孫左衛門 カ) 宝曆十一年三月	横長美	一冊	い 四〇八
為知覚	宝曆十二年八月	横長半	一冊	い 四〇九
女子出生ニ付諸向え為知覚	明和五年十二月	横長半	一冊	い 四二
男子出生ニ付諸向為知覚	明和八年正月	横長美	一冊	い 四三
吉凶為知一卷 寛政一〇年改		横長半	合一冊	い 四四五
1 手紙為知・口上為知				
2 (祝事)				
3 退役				
4 おなか殿出産	寛政七年			
5 (病氣)				
6 女子出産				
7 米吉死去	(寛政六年) 閏二月			
為知帳知三帳之内(行事別為知範圍)	文化一〇 年十一月	横長美	一冊	い 四三
出産為知覚	(文政二二カ) 五月一〇日	横長半	一冊	い 四三六

赤飯配

御目見ニ付こわ飯配覚 宝曆六年九月

明治八・九年

- 1 赤飯配箇所書抜
- 2 (配物人付)
- 3 (配物人付)
- 4 (人付下書)
- 5 網出產ニ付諸事扣
- 6 (配物人付)
- 7 道具并酒覚
- 8 料理材料記
- 9 料理材料記
- 10 祝膳
- 11 祝膳

横長半 一冊 い 四〇五
横長半 合一冊 い 四六九
横長半 (七冊)
横長半 (三冊)
横長半 (一冊)
半折

到来物

所々御飾到来覚 (宝曆二年) 已正月

出產ニ付到来物扣 文政二年三月

鉄治郎出府ニ付到来物覚 嘉永五年七月

年頭御祝儀帳 安政三年

引越為知

喜太郎押田え引越為知覚 明和九年二月

喜太郎押田え引越申合覚 八田孫左衛門 明和九年二月

嘉三郎引越諸色書附 宝曆八年十月

- 1 嘉三郎木町え差遣候為知覚帳
- 2 嘉三郎引越ニ付こわい遣覚
- 3 (衣類) 覚
- 4 嘉三郎木町え持参物覚

横長美 合一冊 い 四〇三
(袋共)

5 嘉三郎差遣候ニ付参為知之覚

長左衛門就引越為知覚 寛政四年二月

覚(引越) 文化二年二月

安宝明心様馬場丁御引越之節御用意之取調帳 (おとみ様) 文政八年

御引越ニ付諸買物調帳 嘉永二年正

法事

靈明院様御七回忌法会執行ニ付諸事取計書并案内申候書類袋共 天保二年五月二日

手配帳扣 天保九年

献光院様御法会諸書物 (天保一四年)

1 手扣

2 諸用扣

3 御見舞帳

4 御悔帳

5 行列帳

6 行列帳

7 行列帳

8 行列帳

9 宅え御焼香御出扣

10 御備到来帳

11 為知帳

12 為知帳

13 野帳

14 御布施配帳

15 振舞案内人別

16 為知帳

御不幸ニ付諸書物 糸右衛門 天保一四年五月

1 献光院様御法会御餅配調帳

2 献光院御遺物配取調帳

3 献光院様御法会御客附取調

横長半 一冊 い 四六
横長 一冊 い 三二
横長美 一冊 い 三〇
横長半 一冊 い 四七

横長半 一冊 い 四七
横長美 一冊 い 四五
横長半 一六冊 い 四八

横長半

四冊 い 四七

4 御音信御到来帳

御死去一件扣(八田嘉助) 家督八田慎藏 嘉永四年二月 横長半 一冊 い 四六

玄曠院様奉唱御不幸ニ付御音信到来物帳 嘉永四年二月 横長半 一冊 い 四四

御焼香帳 嘉永四年一月 横長半 一冊 い 四五

御悔玄関帳 嘉永四年一月 横長半 一冊 い 四六

御行列帳 嘉永四年一月 横長半 一冊 い 四七

玄曠院様御初七日御法事執行ニ付取調帳 嘉永四年 横長美 一冊 い 四三

浩然王静居土亡ニ付百ヶ日法事執行ニ付到来物帳 嘉永五年正月 横長半 一冊 い 四三

玉樹院御不幸ニ付御音信到来物牒 嘉永五年九月 横長半 一冊 い 四九

玉樹院様御初七日御法事執行ニ付取調帳 嘉永五年九月 横長半 一冊 い 四〇

玉樹院様初七日百ヶ日迄御法事御取越御執行到来物帳 嘉永五年九月 横長半 一冊 い 四一

御悔帳 嘉永五年九月 横長半 一冊 い 四二

御行列帳 嘉永五年九月 横長半 一冊 い 四三

献光院様三三回忌浄福寺御法事執行取調帳 明治八年 横長美 一冊 い 四七

宝勝院様御卒去一卷(袋書) 明治十四年 横長半 一冊 い 八五

1 悔帳 明治十四年 横長半 一冊
2 数之餅配り箇所調 横長半 一冊
3 (丸山職へ跡祈禱) 横長美 半折 一冊

4 宝勝院様御遺物配当調 明治十五年 横長美 一冊
5 宝勝院様御法事取調帳 明治十五年 横長美 一冊
6 忌明ニ付礼箇所調 横長美 一冊
7 宝勝院様初七日法事案内箇所 横長美 一冊
8 不幸ニ付用事類入(袋書)書状 一通

八田近三郎於東京死去、右一条書類袋共 明治十四年 三一点 袋入 い 九三

宝勝院一周忌取越法事帳 明治十五年一〇月 横長美 一冊 い 四六

宝勝院七回忌御法事執行取調帳 (八田知道) 明治二十六年一〇月 横長美 一冊 い 三九

全松院様御一件(松本源八死去ニ付) 横長半 一冊 い 四九

祝儀入料

献立写 甲田氏 文化一二年四月 横長美 一冊 い 四三

結算覚(祝事費用) 祖戒 文政九年七月 横長美 一冊 い 四〇

(正月祝儀配当覚) 文政一三年 横長美 半折 一冊 い 二四

御長屋向并祝道見預帳 預り主清兵衛 松井和七 横長美 一冊 い 四二

宛 天保六年閏七月 横長美 半折 一冊 い 九一

離縁

歲暮物配当控 明治六年 横長半 一冊 い 九二

(離縁一条日記覚) 横長半 一冊 い 九二

(離縁談合ニ付書状留書帳) (安政元年カ) 横長美 半折 一冊 い 一〇三

社寺奉加

社寺奉加

群神山和合院長屋普請入料調帳面、諸方へ借入金調元帳 寛政一〇年 横長半 二冊 い 三九〇

諏訪宮神主内山氏普請万端入料帳 世和人紺屋町喜十郎・伊勢町太左衛門 八田嘉右衛門内嶺村吉兵衛宛 文化七年一二月 横長半 一冊 い 三六九

一五世瑞峯代後來為取極世話人連印帳 世話人二九人連名 文化一五年四月 横長半 一冊 い 四三三

(無尽) 取極割合帳 願行寺 文政七年一二月 横長半 一冊 い 三九二

智泉和尚遷化ニ付金錢借用覚 天保八年八月 横長半 一冊 い 三九七

智泉和尚遷化ニ付本寺上川海中徳昌寺迄罷越候道中路錢品々入料帳 天保八年 横長半 一冊 い 一〇四

善光寺御参詣御供遣弘一紙帳 (且那樣孫太郎様) 宗弥 天保九年七月 横長半 一冊 い 三九二

善行寺庫裏家根替諸式控 弘化三年四月 横長半 一冊 い 三九三

寺社附届省略覚 嘉永五年一二月 横長半 一冊 い 四六四

買物帳(食品) 喜久屋伝兵衛(付り善光寺御堂之品御入料覚) 安政四年八月 横長半 合一冊 い 二七三 (三冊)

金猊和尚知門和尚兩代之内寄附扣 半 一冊 い 三九四

覚(御本社建立費用書出) 横長半 一冊 い 三九六

覚(東山道寺社参詣日記 浅間山伊香保 酉三月) 横長美 一冊 い 三九三 半折

覚(榛名山他道中弘) 酉二月 横長半 一冊 い 三九二

(上諏訪寺社参詣心覚) 八月 横長半 一冊 い 三九三

諏訪込え御参詣(小遣帳) 辰八月 横長半 一冊 い 三九三

(奉加入用勘定覚) 横長半 一冊 い 一五六

越後五智国分寺本堂再建勸進記 美 一冊 い 四〇〇

菩提寺淨福寺一件

文化四・五・一四年

1 覚

2 淨福寺様御門前田御年覚帳

3 覚

4 御品々御取替御差引帳

5 無尽割合帳

6 差引帳下書

7 淨福寺持分高目附淨福寺惣代伝右衛門

8 借用金并貸附金無尽加入調帳

從淨福寺預り金并手前取替金差引相極候一紙 八田嘉右衛門宛 文政三年一〇月 美 一冊 い 三七七

淨福寺知門和尚入証印被致候差引調扣 (八田嘉右衛門) 文政三年 美 一冊 い 三七六

淨福寺一件差引調扣 文政三年一〇月 半 一冊 い 三六三

淨福寺一件差引調扣 文政三年一〇月 半 一冊 い 三六三

借財金分出調帳(袋書淨福寺金猊和尚知門和尚兩代之内寄附并取替金其外差引取計方書取) 文政四年一〇月 横長美 一冊 い 三六四

淨福寺一件惣代願書等書留 文政五年五月 半 一冊 い 三六一

浄福寺一件口上覚（住持交代什物引渡無之ニ付
壇中願一件） 文政五年 美 一冊 い 三七六

浄福寺知門和尚口入証印被致候差引調扣 文政
八年一〇月 半 一冊 い 三七五

天保四年（文政三〇九年）

1 文政三年同九年迄浄福寺差引調覚 天保四年
九月 横長美 合一冊 い 三〇

2 辰年御寺ニ付拝借金切払覚 惣代 文政八年
二月 横長半 二冊 い 三〇

口上覚（浄福寺再建奉加ニ付） 栄八 天保一
五年一二月 横長美 一冊 い 三七七

浄福寺差引帳并書類（袋書） 安政八年

1 辰年御寺ニ付拝借金切払覚 惣代 安政八年
二月 横長美 七通 い 三七三
2 〃 書状 横長半 一冊 共

乍恐以口上書御答申上候御事（菩提所田中村浄
福寺一件ニ付） 職御奉行所宛 半 一冊 い 三七四

御尋ニ付乍恐以口上書御答奉申上候（浄福寺一
件ニ付長国寺御役寮え壇家惣代差出下書） 半 一冊 い 三六五

（浄福寺一件ニ付長国寺役寮え壇家惣代〆答書
下書） 半 一冊 い 三六六

（浄福寺他貸金覚） 横長美 一冊 い 三九六

家 財

武 器

（鉄炮その他質入并借用覚） 申〃戊年 横長半 一冊 い 一五三

諸 道 具

取崩し古道具附立帳 本印 文化一〇年六月 横長半 一冊 い 四〇〇
万覚之日記（会席箸、揚子その他） 文政八年 横長半 一冊 い 二〇六
半折

（諸道具帳取調）

1 諸道具書立預帳 預り主佐々木九郎右衛門
松井和七宛 文政九年四月 横長美 二冊 い 四三三

2 諸道具取調帳 春平代・三藏 松井和七宛
天保六年閏七月

諸道具調帳 天保五年一〇月 横長半 一冊 い 四三九

（建家・建具・道具書上扣帳） 和七押改、お八
重〆受取 横長半 一冊 い 四四三

御預り家具（明細書立） 横長美 一冊 い 一八六

覚（食器） 横長半 一冊 い 一六四

御取替物覚（小間物類） 子春 横長美 一冊 い 一〇二八
半折

見聞・風聞書

飛鳥山碑（碑文） 元文二年 横長半 一冊 い 八六五
（木版本）

上州〆信州迄騒動ニて打潰被焼払候人別書留
天明三年 横長半 一冊 い 八二三

（長国寺と家老・番頭公用復切紙留書） 天
明五年 横長美 一冊 い 九三四
半折

芙蓉之間御役人え越中守様被仰渡候御書付留
（内題 松平越中守殿御心得書写） 寛政元年 横長美 一冊 い 八三〇
半折

琉球人名前写 寛政八年	横長半	一冊	い 四八
(小田切土佐守様へ御問合、誤ちにて人打殺候者、助命一条) 寛政九年	横長美	一冊	い 八〇
御入部之節御筈駕御城着御行列帳 寛政一〇年九月	横長半	一冊	い 四七
寛政十一年御家中へ被仰出候御条目写 (儉約令)	横長半	一冊	い 五八
寛政十一年御家中へ被仰出候御条目写 (儉約令)	横長半	一冊	い 五九
(江戸出火模様書留) 文化三年	横長美	一冊	い 八〇九
(御金改役後藤庄三郎、役金遣込一条書留) 文化七年	横長美	一冊	い 八〇八
(寫下村と耳塚村落葉出入ニ付) 暖役人へ掛合之事 (文化八年)	横長美	一冊	い 八〇三
御儉約ニ付御書下ヶ之内御趣意写 文政七年	半	一冊	い 八三二
* (奉行人召抱之節、給金小遣、望性積立、仕着等、其外勤方行儀定、写留)	横長美	一冊	い 八四
口上覚 (南長池村村役取纏一条ニ付写) 文政八年	横長美	一冊	い 八〇七
若君大納言様紅葉山山王両所へ御宮参之規式并御行列 文政二年九月	横長美	一冊	い 四三三
差上申濟口証文写 (水内郡西条村ノ内福岡新田百姓一三人佐馬人足賃錢其外之儀訴訟之所) 天保三年	美	一冊	い 八二九
(上田御預分) 稻荷山騒動覚書 天保七年	半	一冊	い 八二九
石川村山崩変死人書上写 天保七年	横長半	一冊	い 八二二
諸士百石以上御分限帳写 弘化三年十二月	横長美	一冊	い 三六三
安政丁巳座右銘 (日誌) 安政四年	半	一冊	い 七八
(伝兵衛吟味事、御奉行へ呼出ニ付日記留置) 安政六年	横長美 半折	一冊	い 四六
万覚帳 (煎薬・こうやく其外) 安政六年	横長美 半折	一冊	い 四七
登城之節病氣差合之覚控 元治二年	半	一冊	い 八二
諸事同控 (軍役・軍制) (慶応二年)	写本半	一冊	い 八五九
御願書 巨摩郡荊沢村護国隊市川元之輔 (御目得被仰付度) 明治元年	美	一冊	い 八〇
吉井殿へ差出之書面、松代藩士卒処遇建策御拾万金出来期限之事 權大夫長谷川明道 吉井民部大丞宛 (明治四年)	写本半	一冊	い 八五八
(金銀吹替触書ニ付廻状写) 子六月二六日廻	横長美	一冊	い 一八九
(白鳥大明神縁起写)	横長美	一冊	い 三八三
(越後国魚沼郡太田嶋村ニテ穀屋打遣シ候事起一条様子留書)	横長半	一冊	い 八〇〇
(金銀幕府触書留)	横長半	一冊	い 八〇四
口上之覚 (松本組下野出嶋村勇之助俸鉄弥、村預ニ付赦免願) 卯七月	横長美	一冊	い 八〇六
(小堀和泉守伏見奉行勤役中不行届ニ付御役御免一条書留)	横長美	一冊	い 八二
(御門内詰備諸藩人数割并本能寺塔中旅宿割) (幕末カ)	写本半	一冊	い 八六三
日本名所記 皇都積玉堂藏版	木版本 半小	一冊	い 八六七

（寛永一八年將軍家若公様誕生之節慶祝行事并差上腰物寛）

横長美 半折 一冊 い 八六

（日記）

横長美 一冊 い 〇二

諸 芸

武芸・文芸

寛（起倒流柔術免許印可皆伝 長崎源吉門弟人別）
（文政元寅年以降）辰年

横長半 一冊 い 七五

武器入記 文政六年

横長美 一冊 い 〇五

（小学）輪講会席 天保一四年

横長半 一冊 い 二五

（西洋銃法御入門之節束修ニ付意見書状往復写）
東之助他四人

半 一冊 い 三九

農商建辨并時勢論（内題 憂天私言） 中岡慎太郎述 慶応四年書写

半 一冊 い 八五

講商会第一季要件録 第壹号（東京府商法講習所） 明治一三年

（半小）
（銅版印刷） 一冊 い 九三

山論出入訴訟之儀御取暖（習字手本帖）

美 一冊 い 八三

算法規矩

横長半 半折 一冊 い 八四

算法初覚規矩

（半本）
（写本） 一冊 い 八五

大日本国高附書 全

（半本）
（写本） 一冊 い 八七

互評 梅枝女（俳句集）

半小 一冊 い 九〇

（和歌書留）

横長美 一冊 い 八六

（刀剣其他武家道具并書画買入ニ付値段付）

横長美 一冊 い 一五

茶 の 湯

（茶道関係往復書状書留写）（宝曆一安永年間）

横長美 一冊 い 九三

茶事会席扣 天明七年六月

横長美 半折 一冊 い 四四

角御屋敷御品扣帳（御茶之道具之分、書物他百四拾品） 天保五年六月

横長半 一冊 い 四二

寛（屏風他道具等借用） 松井長左衛門 松井清兵衛宛 天保六年閏七月

横長半 一冊 い 四〇

山之湯差引扣 祢津村落合作左衛門代孫市 良右衛門扣（天保七年写） 文政九年

横長半 一冊 い 四三

常用雜記（茶道具） 下書 八田知義 天保三年辰改

横長半 一冊 元

売立帳（茶道具） 中門前二丁目日本屋祢三郎 天保一二年五月一二日

半 一冊 い 二〇

諸道具品々渡覚帳 天保一三年七月

横長半 一冊 い 四六

（茶会覚帳 亭主八田慎蔵） 嘉永三年八月八日

横長美 一冊 い 四三

持来り之膳碗焼物取調下帳（紙背 天正一五年茶会記写）

横長美 一冊 い 五

（茶道具書出）

横長半 一枚 い 二四

（茶道具値段付）

横長半 一冊 い 四三

（茶道具取調帳） 茶腕之部・茶入之部・沓入・水指他

横長半 一冊 い 四七

（茶道具并書画刀剣等値段書立）

横長美 一冊 い 一五

店 方

酒造方（酒蔵・酒店）

酒蔵・酒店勘定

御用油酒代残り覚日記、御用売上ヶ扣 菊屋長兵衛 元文三年 横長美 一冊 い 五〇三

和七取替物覚 文政三年 横長美 一冊 い 八四九

（金銭出入日記） （文政三年カ） 横長美 一冊 い 八五〇

天保二年正月より二月迄貸出金調下帳 天保二年 横長半 一冊 い 二六七

天保二年一月朔日より金銀受払当座扣（酒蔵関係） 天保二年 横長書 一冊 い 二八六

天保七年七月朔日より附込（但三丁のみ） 八田 横長美 一冊 い 二六五

喜兵衛・八田慶助他宛 天保七年七月 八田 横長美 一冊 い 二六五

雑記（酒店、諸方往来） （紙背利用帳面） 半 一冊 い 六六九

藤屋に差出候証文并町割不足之分調書袋共 天保七年・八年 横長半 一通 い 四四四

1 松井本店諸道具調立覚帳 2 弘物調帳 八田嘉左衛門内笠井、高井良右衛門 3 中宿村村庄左衛門子長兵衛、智養子ニ参候由 4 諸道具書出預り帳 清兵衛 横長美 一冊 い 九二二

米通帳 伊勢町酒蔵 師岡源兵衛宛 天保九年 横長美 一冊 い 九二二

当亥酒造方仕入金請取通 酒店 嘉永四年 横長美 一冊 い 九二七

売五日勘定出入調扣帳（酒代） 安政四年三月二二日 横長本 一冊 い 三三

越後御買上米大滝より西寺尾村迄運賃金受払帳 明治三年 横長半 一冊 い 三〇〇

上納高・利金元利勘定覚（酒蔵諸雜用仕払勘定） 西二月 横長美 一冊 い 一六

申年和七取替物覚 横長美 一冊 い 二〇〇

（米代と運賃差引勘定覚） 三平 和七宛 申年 横長半 一冊 い 三〇三

卯二月より辰八月迄御下金調帳 卯年より辰年 横長半 一冊 い 四七四

寅三月より卯正月迄御下金調帳 横長半 一冊 い 四七五

未冬迄米代金貸主調并酒乗り方調帳 酒店 申年 横長半 一冊 い 四七六

丑十二月四月改是迄白米買入調帳 酒店 横長半 一冊 い 四七七

白米請払帳（雛型） 横長半 一冊 い 四七八

子年金錢渡覚 酒店 横長半 一冊 い 四八四

辰八月より金銭諸払明細帳四帳之内 横長半 一冊 い 四八五

辰八月より差引勘定帳四帳之内 横長半 一冊 い 四八六

巳年棚卸御勘定一紙 酒店 横長半 一冊 い 四八七

寅年勝手方取替物調 横長半 一冊 い 四八八

卯年勝手方取替物調 横長半 一冊 い 四八九

辰年勝手方取替物調 横長半 一冊 い 四九〇

寅正月より十二月迄請取酒調帳卯年正月
辰年七月晦日迄酒請取調帳

横長半 合一冊 い 四九二

寅年酒蔵御勘定帳

横長半 一冊 い 四九三

寅年正月より辰八月迄粕代調帳

横長半 一冊 い 四九三

酒蔵勘定明細帳（寅卯辰三ヶ年差引不足）
蔵 巳年一〇月

横長半 一冊 い 四九四

去卯より辰迄酒造一式御勘定目録

横長美 一冊 い 四九五

寅年酒店雑用
卯年辰年巳年酒店雑用

横長半 合一冊 い 四九六

申年越方調元帳 酒蔵

横長美 一冊 い 四九七

午秋より酒蔵諸入用覚 未年〇月

横長美 一冊 い 四九八

未錢懸方調 酒蔵

横長美 一冊 い 四九九

寅年酒蔵雑用
卯年酒蔵雑用
辰年雑用調

横長半 合一冊 い 五〇〇

午年より雑用覚 酒蔵

横長半 一冊 い 五〇一

去々未秋より酉春迄酒蔵諸雑用書立

横長美 一冊 い 五〇二

寅年中才覚金取調書送帳

横長半 一冊 い 五〇七

申年御酒代（ミりん、焼酎、貰之品、諸白、他）
酒蔵 御下屋鋪 亥年二月

横長美 一冊 い 五〇八

御取替物書抜帳 酒方

横長半 一冊 い 五〇四

戌年和七取替物覚

横長半 一通 い 五〇六

御小遣扣

横長半 一冊 い 五〇七

（酒附込帳残箇 前後欠）

横長半 一冊 い 五〇六

（酒蔵・酒店入用覚帳） 戌年

横長半 一冊 い 五〇七

申春残掛調調元帳 酒蔵 申年

横長半 一冊 い 五〇九

上（拝借金覚・横丁店品々為替金払覚・御手元
え 酒店） 米八宛

横長半 一冊 い 五〇〇

亥四月附込帳（酒・糶代金）
坂や外屋菊屋松屋他） 亥年 （江戸屋美のや

横長半 一冊 い 八三五

酒売掛帳

町方卯年貸方書上帳 酒店 卯年

横長半 一冊 い 四八二

在方卯年貸方書上帳 酒店 卯年

横長半 一冊 い 四八二

（酒粕他送状覚） 三〇五月

横長半 一冊 い 一六六

棚卸酒

丑年中指引目録 酒店 安永一〇年

横長半 一冊 い 五八四

卯春より有物調帳 酒方 （文政二年）

横長半 一冊 い 五五〇

酒棚卸勘定目録 文政一〇年

横長半 一冊 い 三六四

酒造方勘定明細取調帳 弘化元〜二年

横長半 一冊 い 五〇〇

酒造方勘定明細取調帳并室屋釜場等普請入料調
弘化三〜四年

横長美 一冊 い 五三三

酒造方勘定明細取調帳 弘化四〜嘉永三年

横長美 一冊 い 五三三

酒造方明細取調御書上帳 酒店 嘉永元〜二年

横長美 一冊 い 五三三

酒造方明細取調御書上帳 嘉永二〜三年

横長美 一冊 い 五三四

酒造方明細取調帳(内題 酒造方棚卸御勘定一紙 酒藏賄代調 諸道具新規并手入調 諸雜用買物代調 前条元建金寄出 粕明俵売払物調) 横長美 一冊 い 五三五
嘉永五年(嘉永四年分)

(辰九月ヨリ已三月迄) 勘定目録(酒店棚卸) 横長美 一冊 い 五六一

酒道具貸付

酒造老通 与兵衛貸置候諸色渡し方扣 天明四年八月 横長半 一冊 い 五七四

酒藏、与兵衛ニかし置候品後方覚 (天明四) 辰年 横長半 一冊 い 五七八

酒造道具覚書 借用主山極八郎右衛門 伝兵衛宛 文化八年 横長美 一冊 い 五七五

御預り諸道具調下帳 酒道具、会席道具え加候分 横長半 一冊 い 四七九

酒藏諸道具覚帳 菊屋惣兵衛内、藤作・菊五郎 横長半 一冊 い 四八〇

酒蔵普請

覚(普請入用金取替請取) 文化七年 横長美 一冊 い 二〇九

蔵式請取通 伊勢町伝兵衛 中町喜助宛 文政一二年正月 横長美 一冊 い 四三五

蔵幅取調帳下書 嘉永五年三月 横長半 一冊 い 四七二

覚(酒蔵并酒道具譲り渡ニ付譲り主八郎左衛門他連印) 森村八郎左衛門 八田嘉左衛門宛 文政元年八月 横長美 一冊 い 五八三

水 油

* 水油御通帳 酒店(裏表紙) 御茶之間 文政一一 横長美 一冊 い 五八二
年七月 半折

酒店諸控留

(酒造留書帳) (前後欠) 伊勢町伝兵衛

上納帳 酒店(菊屋印)

呉服店

呉服仕入勘定

勘定書(内題 明和八年卯秋渡し方勘定書) 伊勢屋茂兵衛 八田孫左衛門・兵助宛 明和九年五月六日 横長美 一冊 い 三四
半折

1 八田嘉印入日記 2 一文字屋久蔵差出 八田兵助宛書出し(万品物)

3 染物入日記 4 入日記 5 入日記 6 入日記 7 入日記 8 寅春上方算用 辰年(安永元年) 横長半 八冊 い 五八
横長美

伊勢屋茂兵衛差出八田孫左衛門宛 安永二年 横長美 一一冊 い 五八九

- 1 差引書
2 染物入日記
3 染物入日記
4 染物入日記
5 入日記
6 加印入日記
7 御召入日記
8 加印入日記
9 染物入日記
10 染物入日記
11 染物入日記

安永二年 仕切帳			いせや茂兵衛 八田孫左衛門宛			横長半 一冊 六〇		
1 八田嘉印仕切之控			近江屋金左衛門 八田伝兵衛宛			横長美大 一冊 六〇		
2 仕切書 (呉服反物)			京都買物追仕切并差引書 伊勢屋茂兵衛 八田孫左衛門・佐助宛 安永二年七月			横長美 一冊 い 三七		
御召京都買物仕切目録			伊勢屋茂兵衛 八田孫左衛門 安永三年五月			横美 一冊 い 三五		
京都已秋差書帳			伊勢屋茂兵衛 八田孫左衛門・左助宛 安永三年六月			横長 一冊 い 三六		
(爲替金・上納金・賃金・品物代他請取日帳)			天保六年			横長半 一冊 い 七五		
買入取立三可相成品々調 (白絹、丹後縞、斜子嶋他)			天保六年			横長半 一冊 い 六七		
御貸下金帳 (反物代金)			袋町 天保八年			横長半 一冊 い 〇三		
(反物差引勘定覚帳)			辰八月6午四月迄色々御差引書 (冥加銀他)			横長半 一冊 い 〇二		
嘉助差出 喜兵衛宛			午四月			横長半 一冊 い 七五		
品々附込帳			申二月			横長半 一冊 い 七二		
(品々払方、東京品払方付込帳)			午年分 (明治三年)			横長半 一冊 い 八三		
大福帳 菊屋直七 (古着買入・古着売払)			寛政元年			横長美 一冊 い 九三		
古 着								

<p>覚(戌品物入覚、両店小売并店々々引上金ノ高・入所附立覚) 中町松井店 文政二年卯五月 横長美 一冊 い 六四</p>	<p>(中町・西木町・松井店陶器店勘定覚) 文政 二・三年 横長半 一冊 い 七</p>	<p>陶器方普請入料取調帳 米八 天保一五年三月 横長半 一冊 い 六</p>	<p>陶器竈入上控 附上納其外修覆入料渡方等 茶之間 嘉永三年 横長美 一冊 い 八五三</p>	<p>質店</p>	<p>御取替物帳(品々代金請取覚) 信州松代質方 菊伝 寅正月 横長美 一冊 い 二〇九</p>	<p>申年御取替物覚、質店 横長美 一冊 い 三二</p>	<p>御内方御取替物帳 質方 子正月 横長美 一冊 い 五〇</p>	<p>子年 1御取替物覚、質方 横長美 二冊 い 九四四</p>	<p>2御取替物覚、質方、御部屋 子年 横長半 一冊 い 五九</p>	<p>質入金利調 糒屋武兵衛他 横長半 一冊 い 五九</p>	<p>町方</p>	<p>町会所</p>	<p>町方諸目録帳 賄方弥三郎 文久二年 半 一冊 い 八七</p>	<p>御普請仕様積帳 紺屋町大工伊惣次(普請金内中借七両請取覚) 田村正仙宛 西五月(文化一〇年) 横長半 一冊 い 六三</p>	<p>紺屋町御普請金受取覚 大工伊惣治へ相渡ス分受取 屋根屋入相渡之分受取 文化一〇年五月 横長半 一冊 い 六四</p>	<p>御普請仕様積り帳 いせ町大工吉右衛門 田村正仙宛 西五月(文化一〇年) 横長美 一冊 い 六〇</p>	<p>三尺四方雪隠々々所新規御入料御積 (文化一〇年) 横長半 一冊 い 三三</p>	<p>穀行司</p>	<p>乍恐以書付奉願候(當年違作ニ付物成粉買請方仕法之儀)并別紙買入代金覚(享) 御町穀屋行司 三人并御町名主、長町人、奥書横倉熊右衛門 御奉行所宛 天保七年十一月一三日 横長半 一冊 い 三八</p>	<p>穀一条諸雜用割合帳 最初千俵口御町八町懸り合 穀屋行司 天保七年 半 一冊 い 八五</p>	<p>社倉困米目録見帳(九三万俵之困俵) 九月 横長半 一冊 い 三九</p>	<p>○</p>	<p>(儉約被仰出ニ付一町切請書案文) 横長半 一冊 い 七〇</p>
---	--	---	--	-----------	--	-------------------------------	------------------------------------	----------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------	-----------	------------	------------------------------------	---	---	--	---	------------	---	---	---	----------	-------------------------------------

御用当座寛帳（町方諸事留書）

七月

（冥加金千年他請取覚）

横長半
半折
一冊 い 八六七
一冊 い 二六

御巡見様入用

御巡見様御用ニ付御賄入料帳 市助・平右衛門・新助 八田嘉助宛 延享三年

横長半
一冊 い 〇三

御巡見様御用御賄入料帳 市助・平右衛門・新介 八田嘉助宛 延享三年

横長半
一冊 い 〇四

天保九年

1 御巡見御普請御入料材木代調 酒蔵帳場普請
材木調帳
2 材木御通帳

横長半
横長美
合一冊 い 〇五
（二冊）

天保九年

1 御巡見様御本陣御入料道具箇所割付調元帳
伝兵衛方・道具方
2 御座敷向飾付道具
3 押付中問迄道具

横長半
三冊 い 〇六

天保九年

1 御巡見様御本陣諸道具取調元帳
2 御巡見様御宿ニ付品々道具取揃帳
3 御調物調帳
4 年中入料帳 菊屋伝兵衛方

横長半
四冊 い 〇七

天保九年

1 御巡見ニ付役割人別
2 御巡見御宿人割人別伝兵衛控
3 御賄被下人数下調
4 御巡見様本陣役割

横長半
四冊 い 〇八

御巡見ニ付諸入料調帳 天保九年

横長半
一冊 い 〇九

御巡見様御宿被仰付候ニ付諸事留日記 伝兵衛
天保九年

横長美
半折
一冊 い 一〇

御巡見様御普請御雑用金銭御通帳 作事方（内
金銭御中借通 懸りと七・喜左衛門 御元方宛）

横長美
半折
一冊 い 六二
（袋共）

御巡見御宿日記 天保九年

半
一冊 い 六三
（袋共）

（御巡見使宿泊ニ付仕度勤方心得） 天保九年

半
一冊 い 八三

覚（御巡見様御宿御用御用ニ付修覆代并品頂戴）
伊勢町伝兵衛 御普請方御役所 天保九年

横長半
一冊 い 六三

普請絵図面仕様注文 天保九年

横長美
一冊 い 六四

参州岡崎表御巡見様一件御取計向申上 天保九年

半
一冊 い 八七

八田嘉左衛門方御巡見様御宿ニ付疊替他勘定
御普請方御役所宛 天保九年カ

横長半
一冊 い 二九

大庄屋

（呼取金、拝借冥加金共勘定覚）
根本栄三郎 御金方御役所 午二月

横長美
一冊 い 一〇

御用番大庄屋

松代藩御用

御用金

1 御用金請取控帳 享保一六年	横長半	一冊	い 五五四
2 覺(享保九)元文五年家中諸士えの貸金	横長半	一冊	い 五五
3 酒株借用ニて造酒仕度伊勢町与二郎差出町年寄宛願書写、并人簀不縁ニ付帳除願鍛冶町武左衛門差出町年寄宛写 (米定値段触出ニ付廻状写) 享保二〇年	横長美 合(四冊)	一冊	い 五三六
4 八田嘉助え御用金七百兩被仰付写 宝曆五年	横長半	一冊	い 五五四
子年拝借金并御預金御取替金調帳 (文化一二年)	横長美	一冊	い 五五六
上納金御下金員数申上覚 八田嘉右衛門 天保四	横長半	一冊	い 五五
借用金調(御内借掛り他元金五千五百兩余) 嘉永二年三月	横長美 半折	一冊	い 三六六
諸入用平均調一紙(御城同心衆取扱入用、足輕奉行取扱、兩御金奉行、御預所取扱諸役向入用、明治藩政振替) (明治元年 ^カ)	横長半	一冊	い 五九
(正金上納勘定下書)	横長半	一枚	い 二六
(町人・武家金高覚)	横長半	一冊	い 二八
他借(惣借財三三二五兩勘定并取片付手段覚・江戸地地震損金)	横長半	一冊	い 一三五
(才覚金御用ニ付取計方) 口上覚 八田嘉右衛門 他九人 閏四月	横長美	一冊	い 一七三
酉年中金三千六百八拾兩余(出金書上)	横長美	一冊	い 一八五
御参府年御 ^口 方大積帳	美	一冊	い 七三

会所・商社

糸方会所

(当町(松代)市立願之趣意)	横長美	一冊	い 三九
(紬商之者共差縄一件尋答一条) 糸方会所宛 天保二年	半	一綴	い 五八六
(紬買方一同、紬市差縄一条願書下書) 天保三年	半	一綴	い 五八七
1 (仕切覚綴) 未年(天保六年)	横長美 合	一冊	い 七六
2 糸市冥加書上帳 御利足御下金請取通 森村和七 糸方会所宛 伝保七年	横長美 半折	一冊	い 九二〇
(御貸下金式分御出方、糸元師冥加金、糸市冥加金、会所繕、筆墨諸入用、仲間給金他勘定覚) 八田嘉左衛門他五人 午五月	横長美	一冊	い 四二
(貸下金、糸市役金他勘定覚)	横長美	一冊	い 四五
(糸改出役ニ付出金留書帳控)	横長美 半折	一冊	い 一四五
木綿行司			
(木綿行司二人之所、四人に増員願) 丹波島村 豊吉・大塚村林右衛門 御産物方御会所宛 弘化五年		一通	い 五九三
(木綿商売行司役西和田村小左衛門之被仰付度願書) 西和田村名主・組頭・長百姓・産物方会所宛		一通	い 五九六

(下字木村木綿師行司役、当村長兵衛ニ被仰付度願書) 下字木村源兵衛 産物方会所宛
(上高田村要吉、木綿師行司役被仰付度願書) 上高田村木綿行司常左衛門・上高田村名主・組頭・長百姓 産物会所宛 弘化二年

産物会所鑑札名面

(六名之者無鑑札ニて種蘭買致シ訖并鑑札下付願) 荒神町佐吉 産物会所宛 弘化三年

(中町仲右衛門他糸蘭買出し鑑札願書) 産物方会所宛 嘉永三年

乍恐以書付御縫リ奉嘆願候(清野村新作蘭買鑑札失念シテ商売始候儀御容赦) 産物会所宛 万延元年七月

(無鑑札ニて蘭中買致候ニ付訖并鑑札願) 杵淵村民八 産物会所宛 万延元年

(無鑑札ニて蘭中買致シ訖并鑑札願) 新町村名主・組頭・長百姓 産物方会所宛 万延元年

慶応元年

1 諸産物差出改帳 南長池村産物方取締役
2 後町口横電渡世ときやう買ニ付腰札願、名面

(商い鑑札請一札書式 木綿師・木綿中買・糸蘭買・糸蘭中買・種蘭買・蚕種師・布中買・絹中買) 御産物方御役所宛 慶応元年八月

山の中分木綿中買・布中買鑑札相渡印判帳 小野唯之進・宮沢源之丞・幡場潤蔵 慶応三年

(山の中分・里分 村組名面)

種蘭買人別 中沢村市郎治他三六人・御他領種蘭買人別 上田領中水飽村金五郎他

一通い 五九六	横長美	一冊い 六三三
一通い 五九七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 五九五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 五九六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 五九七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 五九八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 五九九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六〇〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六〇一	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六〇二	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六〇三	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六〇四	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六〇五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六〇六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六〇七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六〇八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六〇九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六一〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六一一	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六一二	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六一三	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六一四	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六一五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六一六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六一七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六一八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六一九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六二〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六二一	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六二二	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六二三	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六二四	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六二五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六二六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六二七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六二八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六二九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六三〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六三一	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六三二	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六三三	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六三四	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六三五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六三六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六三七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六三八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六三九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六四〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六四一	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六四二	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六四三	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六四四	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六四五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六四六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六四七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六四八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六四九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六五〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六五一	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六五二	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六五三	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六五四	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六五五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六五六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六五七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六五八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六五九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六六〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六六一	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六六二	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六六三	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六六四	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六六五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六六六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六六七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六六八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六六九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六七〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六七一	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六七二	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六七三	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六七四	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六七五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六七六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六七七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六七八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六七九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六八〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六八一	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六八二	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六八三	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六八四	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六八五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六八六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六八七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六八八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六八九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六九〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六九一	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六九二	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六九三	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六九四	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六九五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六九六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六九七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六九八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 六九九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七〇〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七〇一	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七〇二	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七〇三	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七〇四	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七〇五	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七〇六	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七〇七	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七〇八	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七〇九	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七一〇	横長美	一冊い 五九〇
一通い 七一〇	横長美	一冊い 五九〇

(蘭中買在所村付)
(蘭中買仕度鑑札願書) 中町願人安治 御産物方会所宛
(木綿師鑑札凡千三百人余御座候所、無鑑札商渡世増ニ付、取締方願書下書)

産物会所冥加金

町々外木綿師・木綿中買・木綿小売・布小売・藍元師鑑札冥加金上納取立帳 産物会所 中嶋宇吉他四人 慶応元年

(御貸下ヶ金、糸元師冥加金、糸市場冥加金、蘭中買鑑札冥加金他勘定覚) 巳年

(村々冥加上納人名面) (前後一九丁欠)

繰綿篠巻芳礼御冥加銀差出請印帳 糸産物改所

(生糸・蘭改印願書綴) 産物会所宛 明治二年

(生糸・蚕種改印願) 産物役所宛 明治二年

産物会所仕入金融通

天保一子年前之分産物方用書入(袋表書)(天保五年より)(い七一〜一一三在中)

産物方金銀請払扣 八田嘉助 天保五年五月

細小売方と時借通 午一一月

細小売方と時借通 午一一月

細小売方と時借通 午一一月

判取帳 産物会所 天保六年正月

一冊い 五九六	横長美	一冊い 六三三
一冊い 五九七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 五九五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 五九六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 五九七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 五九八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 五九九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六〇〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六〇一	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六〇二	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六〇三	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六〇四	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六〇五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六〇六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六〇七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六〇八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六〇九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六一〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六一一	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六一二	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六一三	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六一四	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六一五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六一六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六一七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六一八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六一九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六二〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六二一	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六二二	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六二三	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六二四	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六二五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六二六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六二七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六二八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六二九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六三〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六三一	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六三二	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六三三	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六三四	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六三五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六三六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六三七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六三八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六三九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六四〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六四一	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六四二	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六四三	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六四四	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六四五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六四六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六四七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六四八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六四九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六五〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六五一	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六五二	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六五三	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六五四	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六五五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六五六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六五七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六五八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六五九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六六〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六六一	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六六二	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六六三	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六六四	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六六五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六六六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六六七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六六八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六六九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六七〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六七一	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六七二	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六七三	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六七四	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六七五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六七六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六七七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六七八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六七九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六八〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六八一	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六八二	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六八三	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六八四	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六八五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六八六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六八七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六八八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六八九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六九〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六九一	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六九二	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六九三	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六九四	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六九五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六九六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六九七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六九八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 六九九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七〇〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七〇一	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七〇二	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七〇三	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七〇四	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七〇五	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七〇六	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七〇七	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七〇八	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七〇九	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七一〇	横長美	一冊い 五九〇
一冊い 七一〇	横長美	一冊い 五九〇

(錢改有金・反物買入) 日帳	橫長美半	一冊	い	七
金錢請払覚(絹、紬、縮緬他)	橫長半	一冊	い	七
從午四月一二月迄紬代金請払帳	橫長美	一冊	い	九
從末四月一三日市御產物代金請払帳 八田嘉助	橫長美	一冊	い	〇
絹紬御払代金請払元帳 產物方(竹簗見出し付) 天保五年より	橫長美	一冊	い	二
兩替間錢取調元帳 產物方 天保六年正月ヨリ	橫長半	一冊	い	三
從午六月末四月九日市迄御中借代金払差引帳 天保六年	橫長半	一冊	い	三
從末一二月御產物代金請払帳	橫長美	一冊	い	四
御内用ニ付上州高崎布袋屋手代莊五郎三月廿三日 日〇四月朔日迄滞留中品品々覚	橫長半	一冊	い	五
五月中紬代金払一紙	橫長半	一冊	い	六
(請払勘定覚)	橫長美	一冊	い	七
染縮緬仕切覚	橫長美	一冊	い	六
白縮緬御借覚	橫長美	一冊	い	九
(午年正月元日御中借覚)	橫長半	一冊	い	〇
(高崎送荷物賃銀) 覚	橫長美	一冊	い	二
(松居久右衛門差引御書上) 覚	橫長美	一冊	い	三
五月中紬代金請払	橫長美	一冊	い	三
(御中借請払) 覚	橫長半	一冊	い	四

(登糸・繰綿覚) 八田嘉助・山崎久右衛門 天保三年一二月	橫長半	一冊	い	五
向々金錢渡判取帳 產物会所 未年七月	橫長半	一冊	い	六
(產物会所宛請取) 覚	一綴 (五二通)	い	七	
(產物会所関係勘定断片)	一六枚	い	六	
為替証文割印帳 嘉永三年	橫長美半折	一冊	い	九
(諸方為替手形送受日記覚) 產物会所	橫長美半折	一冊	い	九
(御中借勘定覚) 天保八年	橫長半	一冊	い	六
(天保五・九・十年諸勘定覚) 產物会所	橫長半	一冊	い	三〇
(絹紬其外市入用金八田嘉助より中借・時借勘定覚) 當番八田喜兵衛・立会佐竹周藏	橫長美	一冊	い	一
(手挽繭仕入別段拝借他十八口殘金覚)	橫長半	一冊	い	二
(小諸町大和屋利兵衛他勘定殘金覚、白布・染絹・白紬・絹編他)	橫長半	一冊	い	三
(五月〓八月、市送り品々代金中借払方覚)	橫長半	一冊	い	四
(御中借金老万式千百六拾三兩余勘定覚)	橫長半	一冊	い	五
(白紬、紬縞、色七子、斜子縞、染紬他代金勘定覚 友吉他五人)	橫長半	一冊	い	六
(色物、絹縞、斜子縞他勘定覚)	橫長半	一冊	い	七
(金老万九百五拾五兩余諸支払分勘定覚)	橫長半	一冊	い	八
年賦金請取通(御貸下金拜借上納仕法) 八田喜兵衛 中町五兵衛後家・役代覚右衛門宛 天保五年一二月	橫長半半折	一冊	い	一〇

(産物代金御中借、口銭之分御中借、荷送入御中借、江戸府為替金之分御中借、眞綿繰合方御中借、老万六千三百五拾三兩勘定寛)	横長半	一通い	二三
(糸他買入勘定寛)	横長半	一冊い	二四
(元金九千九百六拾貳両、礼金八百三十老兩、月々上納勘定寛)	横長半	一冊い	二五
寛(江戸出金高メ、向々払金高メ)白縮緬、生絹也)	横長半	一冊い	三
(平次郎他二八口貸金返済勘定寛)	横長半	一冊い	三
(白紬他品々請取代金勘定寛)	横長半	一冊い	三五
(文左衛門他一人勘定寛)	横長半	一冊い	三六
(六・七月米計) 寛	横長半	飯一冊い	三七
(御中借勘定寛)	横長半	一冊い	三
已正月十二日荷造江戸差出(縞斜子、丹後縞、絹縞、紬縞、色袖、ちりめん他)重次郎	横長半	一冊い	三
已正月金錢請払寛	横長半	一冊い	三四
産物会所拝借金上納方御切米一卷	横長半	一冊い	三五
友吉午七月前請拝借分 午酉年	横長半	一冊い	三七
布屋長左店買入品物足数御書出 尤八月二十九日 ら一〇月三日市迄	横長半	一冊い	三八
未年古紬売捌分	横長半	一冊い	三
(染裏絹江府捌方ニ付、尺長物腰機ニて為織度同) 産物会所懸 二月	横長美	一冊い	三
紬方差引	横長美	一冊い	四
寛(辰年縞物代他) 信州松代増田	横長美	一冊い	四
寛(白中幅縮緬二七疋) 勘定 菊屋孫兵衛 産物方御会所宛 未年八月六日	横長美	一冊い	四七
菊屋孫兵衛小幅縮めん染代(付箋とも)	横長半	一冊い	四八
高井店白紬(勘定寛) 午年三月一二日	横長美	一冊い	四九
仕切寛(広縮緬他)	横長美	一冊い	五〇
(絹縞借用寛下書)	横長美	一冊い	五一
(高井店白紬打直し) 寛 産物御会所宛	横長美	一冊い	五五
(色紬他勘定寛) 一〇月分	横長美	一冊い	五
産物代金御中借并上納方申上 産物会所懸 酉年 一二月	横長美	一冊い	五
御出方取調(産物会所御出方金一紙) 産物会所懸 四月	横長美	一通い	六
(三ヶ月分品々代金請取寛) 清三郎 御産物方御会所宛	横長半	一枚い	二六
重次郎(白紬・生絹寛)	横長半	一冊い	二五
(重次郎・与作・与三兵衛并野瀬田ら上納白紬勘定)	横長美	一冊い	二六
九月十三日亀清え相渡候分(白紬・色斜子・竜門上下)	横長美	飯一冊い	二二
拝借金子御元調(紬方・産物会所・甘草方)	横長半	一冊い	三三
(仕切状綴) 八田競宛	横長半	一綴い	三三

蚕種仕入枚数并代金寄出帳

産物無尽

(産物御無尽之割返ニ付伺) 九郎右衛門・与二右衛門 嘉右衛門宛 一二月一九日

葉 藍

葉藍渡通 天保八年

甘草・杏仁

請印帳 (甘草扱商売ニ付鑑札)

(甘草買入代金御中借受取覚) 間修理 嘉永三年二月二日

請印帳 (杏仁商ニ付鑑札)

請印帳 (御領産杏仁扱商売ニ付鑑札)

荷物大坂為積登箱数并元金雜用凡積 店 嘉永五年三月

陶器 竈 (↓店方 陶器方)

かま築立諸入用調帳 荒神町伝兵衛 弘化二年正月

荒神町陶器竈一条立入人最初申談之義・御聞置 申上 (弘化二年カ) 五月 陶器方 産物会所懸

(陶器竈之儀ニ付伺他一件書類写) 〇月

(東寺尾村地内ニて当村惣吉陶器渡世仕度、名主組頭長百姓願書) 産物方会所宛 弘化三年

横長半 一冊 い 六〇

横長美 一冊 い 五四

横長半 半折 一冊 い 九〇

美 一冊 い 七六

横長美 一冊 い 一四五

美 一冊 い 七〇

美 一冊 い 七九

横長半 一冊 い 三〇

横長半 一冊 い 三

半 一冊 い 〇

半 一冊 い 六

一通 い 五二

乍恐以書付済口奉申上候 (荒神町陶器竈築立煙卷、近隣迷惑申立) 伊勢町伝兵衛・東寺尾村三役 御産物御役所宛 嘉永七寅年正月

大坂ニて金子調達

大坂東雲堂之金談一卷 (御手段金調達) 弘化二年

(金子調達之為、大坂之龍出度伺書下書) (弘化二カ) 巳年二月

(大坂表ニて銀主相尋候日記) (弘化二) 巳年二月

旅籠帳 真田信濃守内八田嘉助宰領片桐庫之助 嘉永四年

産物会所手控

来客滞留中日記 天保三辰年五月

差上申済口証文之事 (善光寺入穀并絹商差支候趣申立候一件) 善光寺領惣代五人・松代領惣代八人 上野林光院・常照院宛 (取扱) 天保六年一〇月

(木綿買取候節、目方不足ニ付掛合候も不熟ニ付、吟味願) 鍛冶町義兵衛 御産物方会所宛 弘化三年

産物方手元留記 安政六ノ万延元年

(相州津久井県佐野川村名主才兵衛蚕種交易売捌方願書写) 万延元年

(相州津久井県佐野川村才兵衛弟彦治郎方御領産交易取扱方致度旨ニ付産物会所之差出願書写) 万延元年

半 一冊 い 六三

半 一冊 い 八四

半 一冊 い 八三

美 一冊 い 八四

横長半 一冊 い 七二

横長半 一冊 い 四八

横長半 一冊 い 三九

一通 い 五九五

美 一冊 い 六三

美 一冊 い 六二

美 一冊 い 六二

産物方之儀手控 慶応元・二年 横長美 一冊 い 八五三

(生糸蚕種取引ニ付、幕府触書并真田領産物会所、横浜売込一件書類写) 慶応三年 横長美 一冊 い 五六一

(御預り所之方蚕種之儀等改方ニ付帳面認方) 慶応三年 横長美 一冊 い 八四三

(大丸・岩城両店手代と懸合委細書状下書) 五月 横長半 飯一冊 い 二四

* (給金・現米・味噌支給并鉄吹入用勘定覚) 横長美 一冊 い 二〇六

(江戸南本所道筋普請入用金、砂糖座運上金にて用立可致 砂糖製法伝授触書留) 半 一冊 い 八七二

当座留 (御國産会所) 八田嘉助 申年六月 横長半 一冊 い 九六

覚 (領分不作ニ付儉約被仰付写留) 一月二七日 美 一冊 い 八六

願書之通御聞届之分 (文言例文) (明治四カ) 横長半 一冊 い 二〇

蚕糸布告書 (木版本) 明治二年 半 一冊 い 七九

(蚕種并生糸外国行改ニ付松代産物会所留書) 明治四年 横長半 一冊 い 六三五

産物会所勤人別

(産物方附、同世話役、同使丁給金額并名面) 横長半 一冊 い 九

御内々奉伺候 (会所御用向増人ニ付) 産物会所懸 一月 横長美 一冊 い 四〇

産物会所入用

(竈屋根修覆入用書上) 荒明神町伝兵衛 産物会所宛 嘉永六年 美 一冊 い 八七六

覚 (魚鳥野菜品々代、塩味噌炭薪其外品々代、丸長料理代、藏代、会所方酒代他) 菊屋孫兵衛 御産物御会所宛 未年十二月 横長半 一冊 い 三

(御貸下金之内会所諸入料差引、糸師冥加他勘定覚) 亥辰年 横長半 一冊 い 一八

大店向手代共罷越候節増田賄入料諸勘定ノ出辰・巳年 横長半 一冊 い 一九

(請方出向旅小遣書留) (幕末) 横長美 一冊 い 九五三

仕訳 (御出勤御進物、臨時御進物、別段御進物雛飾入用) 横長半 一冊 い 二

午正月御礼金御書上帳 源十郎・中町久兵衛宛 横長半 一冊 い 三

未入用書立帳 (産物会所) 横長半 一冊 い 三七三

(正月より一月迄諸色請払出入帳) 横長半 一冊 い 二四

(賄賃勘定) 覚 田原屋金兵衛 菊屋栄八宛 亥年 横長半 一冊 い 二三

(賄賃勘定) 覚 田原屋金兵衛 菊屋栄八宛 亥年 横長半 一冊 い 二三

三月朔日より四月朔日まで 横長半 一冊 い 二五

石引人数 (出勤日覚) 文久三子年 横長半 一冊 い 七六

村々産物改所賄覚 横長半 一冊 い 七九

村々産物改所賄改 横長半 一冊 い 七九

産物会所仲間給金

品々頂載物通帳 御(産物) 会所御召抱清三郎 天保七年	横長半 半折	一冊	い	九二
頂載物御中借通帳 御会所召抱平次郎 産物会所 宛 天保九年	横長半 半折	一冊	い	九六
品々頂載物通帳 清三郎 産物会所宛 天保一二 年	横長半 半折	一冊	い	〇九
頂載物御通帳 清三郎 御産物方会所宛 天保一 三年	横長美 半折	一冊	い	九六
御給金頂載之通 御仲間清三郎 御産物会所宛 天保二三年	横長半 半折	一冊	い	九二
御扶持其外頂載物請取通帳 仲間和左衛門 御産 物方会所宛 弘化四年	横長半 半折	一冊	い	九五
御扶持其外被下物頂載通帳 和左衛門 弘化五年	横長半 半折	一冊	い	八四
頂載物請取通帳 政治 産物会所宛 安政五年	横長半 半折	一冊	い	九三
頂載物請取通帳 政治 産物会所宛 安政六年	横長半 半折	一冊	い	九四
頂載物請取通帳 東寺尾村政治 御産物方会所 万延二年	横長半 半折	一冊	い	九七
御扶持請取方車屋出入覚 明治二年	横長半 半折	一冊	い	八四
(産物会所番人袋賞覚他)	横長美 半折	一冊	い	五七
商社 商社御下金并所々々入金調(明治三年)	横長半	一冊	い	六六
商社為替金手形引替金札御借入元帳 計政局 明治三年	横長半	一冊	い	六七

明治三年五月

1 商社手形引換金札請取元帳 引換掛	横長半	四冊	い	六六
2 官札入金高				
3 金札引換商社為替手形時預引戻調元帳 引換掛				
4 商社為替手形当座より御中借留 計政副主事				
明治三年				
1 龜屋善三郎・野沢屋惣兵衛、蚕種生糸代差引帳	横長半	合一冊	い	六五
寄出調申上				
2 蚕種紙枚数覚				
3 生糸覚				
横浜商社金銭出納凡調申上	横長半	一冊	い	六〇
仕切書(横浜弁天通四丁目野沢屋惣兵衛差出大 黒屋幸蔵宛)	横長美大	一綴	い	五八
羽尾伊勢町於両商社取扱候手形出納目録 明治 三年	横長半	一冊	い	六三
羽尾商社金銭請取調申上 (明治三年)	横長半	一冊	い	六三
羽尾商社金銀請取目録 (明治初年)	横長半	一冊	い	六六
羽尾伊勢町両商社取扱候手形出納目録 明治三 年	横長半	一冊	い	三七
(蚕種売込出納目録)	横長半	一冊	い	六六
商法社雑用帳内訳 (明治初年)	横長半	一冊	い	六九

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その二） 解題

- 一 八田家文書の伝来と目録の刊行
- 二 八田家の来歴と組織機構
- 三 糸会所・産物会所・商法社
- 四 八田家文書の構造把握と類別配置

一 八田家文書の伝来と目録の刊行

本目録は、既刊『史料館所蔵史料目録第四十一集・信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その一）』（以下、『八田家文書目録（その一）』と略称）の続編である。『八田家文書目録（その一）』は大藤修氏が担当し、解題もまた大藤氏の執筆にかかわる。『八田家文書目録（その二）』の作成および解題の執筆については、大藤氏の整理方針と解題を踏襲して、一貫性を保つよう心掛けた。本解題は『八田家文書目録（その一）』を要約したものであるから、詳細については、『八田家文書目録（その一）』をみられたい。

八田家は、宝永六年に松代伊勢町に居を構えて以来、屋号を「菊屋」といい、家業を営なむと共に、町年寄役、松代藩御用商人、松代藩御勝手御用役、給人格、糸会所・産物会所・松代商法社役人などの任に従事した。そうした藩財政への関与や町行政あるいは家業経営といったさまざまな業務を長年にわたって遂行するなかで、それぞれの職責にかかわって作成あるいは受理した記録書類が大量に蓄積されるに至った。総点数が数万点におよぶため、目録刊行については何回かに分けることとし、前回の『八田家文書目録（その一）』において約三五〇〇点を収録し

た。今回の『八田家文書目録（その二）』には、一〇四六点（子番号を付した二〇八冊、一一四通が、これに加わる）を収録した。なお引き続き『八田家文書目録（その三）』の刊行が予定されている。

二 八田家文書の来歴と組織機構

八田家の活動本拠地は、表高一〇万石真田領の城下松代町であった。松代町は馬喰町、紙屋町、紺屋町、伊勢町、中町、荒神町、肴町、鍛冶町の八町からなり、また伊勢町の枝町として木町、鏡屋町があった。本目録所収文書を伝来収蔵していた八田家は伊勢町居住であるが、元来は木町居住の八田家から分家したものである。そのため、本家を木町八田、分家を伊勢町八田とよびわけている。利用上の便宜を考慮して、『八田家文書目録（その一）』に掲載されている「木町八田家系図」・「伊勢町八田家系図」（大藤作成）を、本解題に再掲した。

伊勢町八田家の来歴

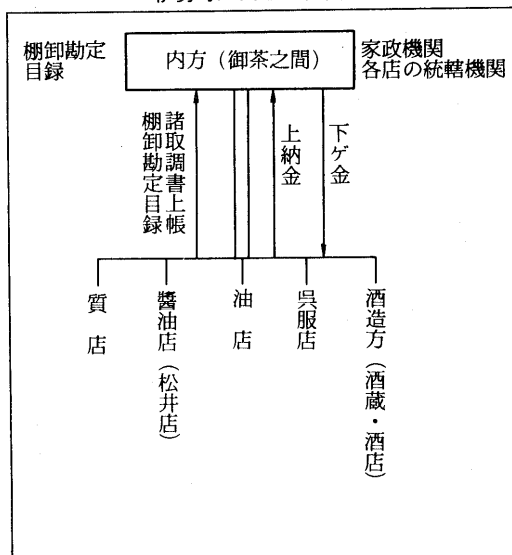
木町八田家三代長左衛門庸重の次男、孫左衛門重以が宝永四年に分家し、伊勢町に屋敷をかまえたことに始まる。この時以来、伊勢町八田家の当主は代々町年寄役を勤め、町奉行管轄の下で、松代城下、町人町八町の行政管理機能を遂行した。また享保一一年御用金才覚の功により御目見を仰せ付けられ、翌一二年には御扶持方三〇人扶持を下され、三代目以後は給人格御勝手御用役という士分格役職を与えられた。ちなみに宝永年中から寛延三年までの才覚金元利は金八万五千兩余、御用初八十六万四千俵余におよんでいる（史料番号い338）。

四代嘉右衛門は文化・文政期に産物御用掛、川船運送方御用役、糸会所取締役、産物会所取締役などを歴任した。五代嘉助・知則、また六代慎蔵・知道も産物会所取締役の任をはたした。知道は維新後、明治二年商法掌、廃藩置県後は小属補助商法方に任ぜられた。その後明治一二・一三年、第六三国立銀行頭取をつとめた。

伊勢町八田家の経営組織

右にのべたことは、松代藩とのかかわりにおける八田家の役職であった。伊勢町八田家本来の家業はそれなりの経営組織を形成して運営されていた。大まかに八田家経営の組織機構を図示しておこう。

伊勢町八田家の組織



もちろん宝永年間以来の経営組織が最初から図示のように確立していたわけではない、営業部門によって業績の起伏が見られ、不振時には休店もありえた。また扱い品目にも幅があった。営業成績の振幅に従って、奉公人の人数も上下したことはないまでもない。

上段においた「内方（お茶之間）」は、家政機関であるとともに営業各店の統括機関でもある。そして未だ「店」として分離独立するに至っていない営業部門を内包して管轄する機能を有していた。

下段にある酒造方（酒蔵・酒店）、呉服店、油店、醬油店（松井店）、質店は、それぞれに営業部門を専門化させ、それぞれに棚卸勘定目録・諸取調書上帳を作成して店限りの収支を計算している。そして各店の営業成績は、内方における総務的役割を果たす元方において、あらためて元方棚卸勘定目録に集約されるのである。

口絵写真に掲げた「天保四年正月吉祥日 諸向請払帳 八田和則」は、毎年作成される棚卸勘定目録とは別に、この年度一年限りに部門別収支を集約したものである。内

容というよりも形態に特徴が見られるので掲げて見た。すなわち項目毎に竹箋が付されて検索を容易にしていることである。竹箋は一本であるが、項目は四つ多く一七ある。当時の家業遂行に対する財務的把握の体系が、どのような部門設定として認識されていたかを知ることができ。帳面に記載されている順序にしたがって、竹箋の有無と竹箋の見出し名辞となる。なお丸括弧内の記述は解題執筆者の補注である（い881）。

〔竹箋なし〕

頂戴御物成（給人格扶持）

〔竹箋〕 入上家賃

田畑山林作徳并抱屋敷家賃取揚

〔竹箋〕 酒造

酒造方 支配人和七 杜氏七兵衛

〔竹箋〕 質方 質方 支配人勝之助

〔竹箋〕 利金 貸出金利分并年賦割合返済口

〔竹箋〕 取入金 諸方被出取入金

〔竹箋〕 当用 当用方入料渡方（家計）

〔竹箋〕 手許払 手許買上并音信贈答目録付届（家計）

〔竹箋〕 下屋敷 下屋敷仕送取替（家計）

〔竹箋〕 雑用渡 佐久郡飯山其外諸方懸合雑用渡

〔竹箋〕 才木方 才木方請払指引 支配人伝治

〔竹箋〕 無尽 無尽出金并懸戻

〔竹箋〕 利分渡 預り金并入金利息渡

〔竹箋〕 雜記 諸向指引雜記

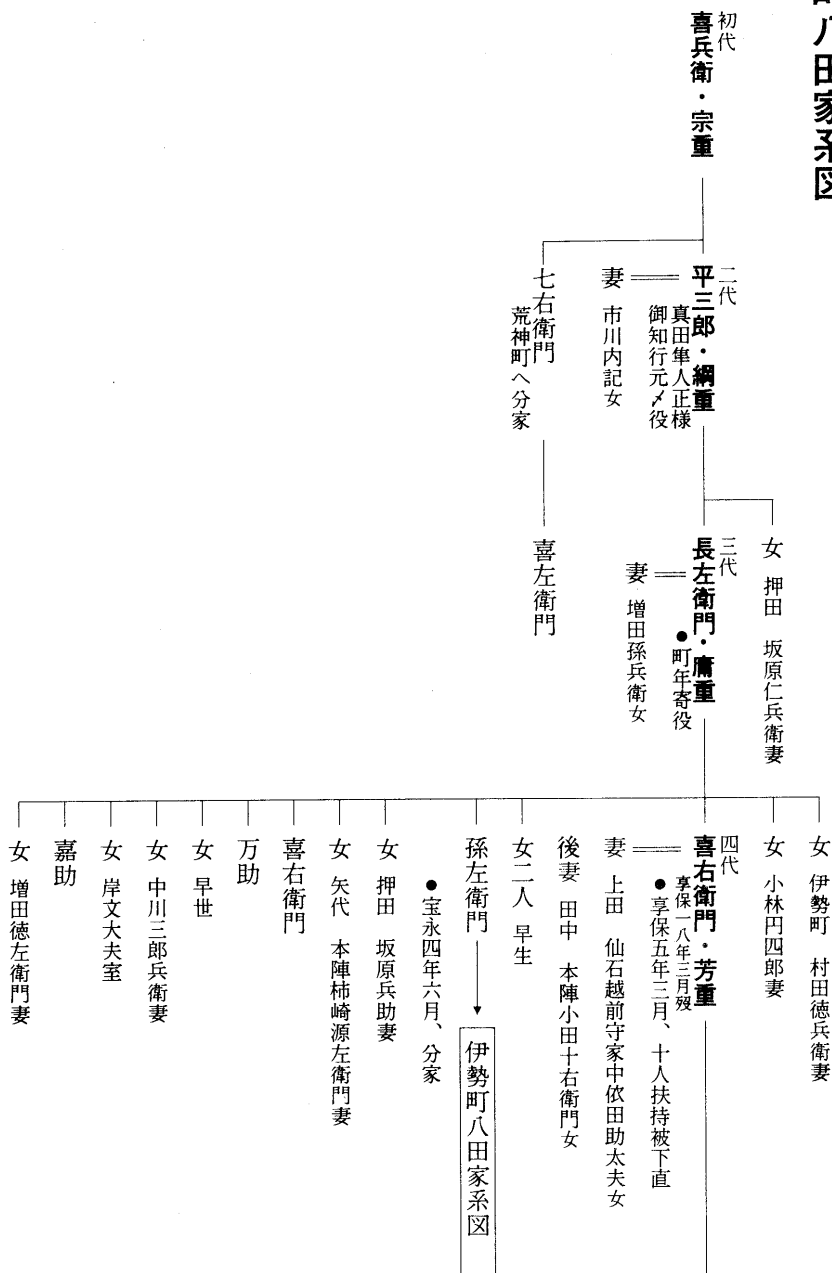
〔竹箋なし〕 佐久郡上塚原池田源助（質地貸付一件）

〔竹箋なし〕 通船方

〔竹箋なし〕 已年貸出金（一九件）

こうして見ると、有機的組織体として運営される八田家の活動を支えているのは、主人と支配人・奉公人および業務遂行とそれを保証する財務裏付のみならず、参照可能な関連記録書類の作成と蓄積であり、人事・業務・財務・記録の四者を有機的に結合させる管理機能と、その管理機能を発揮せしめるように構成される組織構造であることが、明らかである。

木町八田家系図



養女 伊勢町八田孫左衛門女、岡野甚十郎
室（享保十四年）

五代
長左衛門・昭重

享保一九年二月歿
●享保九年七月、被召出七人扶持被下置、
刀御免御物成御用勤被仰付
●享保十一年十二月、給人格被仰付
●享保十二年十月、御郡奉行支配二被仰付
●享保十三年八月、種貸役被仰付
●享保十八年三月、家督相統、十五人扶持被下置
妻 伊勢町 八田孫左衛門女

惣二郎 後二競ト改ム
●十人扶持被召出御番入
後信安公御近習被仰付
名競ト被下置御加恩百
石被下置馬場屋敷被下置
室 岡野甚十郎女

女 樋口一角室
女 高田幾田室
競 室 木町 八田嘉右衛女

六代
吉十郎・重薫 押田 坂原兵助次男

●享保十九年二月、家督相統、十五人扶
持被下置
●享保十九年七月、五人扶持被召上、御目見
遠慮被仰付
●享保二十年五月、小幡長右衛門組江御番入
被仰付、後二江戸にて出奔、断絶

七代
嘉右衛門・英重 増田徳左衛門三男

●宝暦六年、再興
妻 伊勢町 八田嘉助女

八代
喜右衛門・嘉重 伊勢町
●八田嘉助四男
女 八田競室
女 八田競室
女 大瀬登養女

九代
長左衛門・實親
十代
喜兵衛

○「真田家家中系図書（八田勇氏所蔵）、「八田家系譜調書」（国
立史料館所蔵八田家文書あ二七一）、「旧書留帳（同前あ二
七三）により作成。史料的に判明する範囲内で記した。
○……は養子・養女を示す。

伊勢町八田家系図

初代
孫左衛門・重以

延享四年五月二十三日歿

輝光院長嶽榮久居士

●宝永四年六月、木町八田家より分家

●宝永六年六月、町年寄役被仰付

(寛保三年七月)

●享保十二年十二月、三十人扶持下置

テフ 屋代 柿崎市之丞基景女

享保九年八月十日歿

蓮臺院華屋千開大姉

二代 (元禄十年) 生
嘉助・芳茲 孫左衛門弟

宝曆六年七月十五日歿(60)

精心院好道祐善居士

●寛保三年七月、町年寄役被仰付

(上玉曆六年七月)

●延享四年、家督相統、

三拾人扶持被下置

●寛延三年十二月、二十人扶持

御加増被下置

ヘン 屋代 柿崎源左衛門景忠妹

享保十五年四月二十日歿

妙源院桃雲仙花大姉

マツ(後妻) 樋口弥兵衛兼季女

宝暦元年五月十八日歿

桂心院貞屋恵松法尼

女 木町 八田長左衛門妻
女 押田 坂原兵左衛門妻
女 木町 八田嘉右衛門養女、岡野甚十郎室(享保十四年)

女 増田惣左衛門妻

ツタ 享保二十年九月十一日歿

光岩随円童女

工イ 享保十五年五月二十二日歿

嘯月吟草童女

寅松 寛保二年十一月十日歿

玉翁瑞光居士

女 木町 八田嘉右衛門妻

キイ 享和三年六月二十二日歿

新十郎・重則 押田 坂原兵左衛門三男

宝暦十二年八月十三日歿

タカ 寛保二年九月十八日歿

隔山了河童女

孫助 寛延四年三月十三日歿

天真露節居士

三代 (寛保二年) 生

孫左衛門・以親 幼名鉄治郎

享和三年正月一日歿(62)

慧光院忠崇泰全居士

●宝暦六年、家督相統、三十人扶持被下置

●宝暦十一年三月、町年寄役被仰付

(寛政四年二月)

●享和二年十二月、給人格御勝手御用役被仰付

チカ 綿内 堀内惣蔵養女

文政八年五月二十一日歿

靈明院審承井幹大姉

女 大瀬登室

喜右衛門 木町 八田嘉右衛門養子

権五郎 寛延四年三月十三日歿

露外修節童子

女 寛延四年五月十八日歿

寛延四年五月十八日歿

一影幻夢童女

常一郎 明和五年十一月二十二日歿
貞觀顯常童子

ヒサ 明和八年六月二十二日歿
智海淨展童子

武治郎 安永三年十月二十一日歿
絶紅素印童子

甚五郎 享和元年九月八日歿
忠節義孝居士

米吉 寛政六年十一月八日歿
真相宝珠童子

四代 (明和八年) 生
嘉右衛門・知義

嘉永元年十二月九日歿(78)
悟達院大道無關居士

●寛政三年二月、町年寄役被仰付
●享和三年二月、家督相統、二十人扶

持被下置、給人格御勝手御用役被仰付
●文化十年十月、五人扶持御加増被下置

●文化十三年五月、産物御用掛被仰付
●文政七年閏八月、給人永格被仰付

●文政七年十一月、社倉調役兼被仰付
●文政九年九月、糸会所緒懸り兼被仰付

●天保四年、産物会所取締役仰付
●天保八年十二月、切米納穀三十俵御加増被仰付

ナカ 木町 八田喜右衛門女
天保十四年四月一日歿

獻光院宝珠貞塚大姉

喜兵衛 母方再従弟堀三右衛門家来安達
与左衛門弟ヲ文化十年七月二引取厄介

仕置、同年十一月二養弟トス
●文化十年十一月、別家、五人扶持被下置、

御勝手御用役被仰付
●文政七年十一月、社倉調役兼被仰付

●文政九年九月、糸会所惣元方兼被仰付
●天保四年、産物会所元方被仰付

●天保十二年十二月、一人扶持御加増被下置

女 三人

女

寛政五年十一月十七日歿
露雲清麿童女

女

辰三郎・知嘉 厄介致置候落合辰三郎
ヲ文化七年二月二智養子トス

●文政元年十二月、被召出別家、十人扶持
被下置、御勝手御用役被仰付

●文政七年十一月、社倉調役兼被仰付
●文政九年九月、糸会所惣元方兼被仰付

●天保四年、産物会所元方被仰付

女 小山田六郎兵衛藤四郎室(文化十二年)

女 師岡七郎右衛門梓治助室(文化十二年)

女 文化元年九月八日歿、幻明觀夢童女

養女 増田徳左衛門次女、大瀬登室(文政六年)

養女 八田辰三郎次女、岡野弥右衛門梓錫之助室(文政九年)

五代 (文化四年) 生

嘉助・知則 幼名鉄之助

嘉永四年十一月二十三日歿(45)
玄曠院浩然至靜居士

●天保五年三月、被召出御勝手御用役見習被仰付
●嘉永二年二月、家督相統、二十人扶持被下置、
本役被仰付

ムメ 岡野弥右衛門元礼次女

明治十四年十二月十日歿
宝勝院玉堂妙珠大姉

六代 (文政十二年) 生
慎蔵・知道

明治四十年十月八日歿(79)
知道院濟庵子靜居士

●嘉永五年正月十六日、家督相統、
三十人扶持被下置、御勝手御用役被仰付

●明治二年十二月、商法掌

●明治三年閏十月、士族

●明治四年八月、免職、少属補助商法方

●明治十二年七月、同十三年三月、第六三

国立銀行頭取

ユウ (天保三年) 生
岡野元賢妹

明治十九年四月四日歿(65)
清亮院浄雲慧明大姉

鉄治郎・知徳

明治九年三月二十三日歿
正倫院義觀諦賢居士

シゲ

伊勢崎 竹内莊三郎妹
明治十年正月二十一日歿
法性院還入到安大姉

長 (天保八年) 生
松木董正妻

明治十七年十月三十一日歿(48)
清操院順譽皎月大姉

ハル

嘉永五年九月二十三日歿
玉樹院實相妙心大姉

(嘉永四年) 生
綱

明治三十三年十一月二十日歿(50)
瓊芳院玉室貞樹大姉

七代 (安政元年) 生
彦次郎

上田 内藤源治郎弟

明治二十七年七月八日歿(41)
鮮明院真光透然居士

久米 (安政二年) 生

大正七年九月十六日歿(64)
秋岳院玉顔妙姿大姉

八代 明治九年十二月九日生
彦次郎・知信

昭和三十年三月九日歿(80)
知信院晚香子進居士

よう (明治十一年) 生

下高井郡江部村 山田莊左衛門次女
明治三十一年六月二十六日歿(21)
端正院高信操要大姉

明治十五年生
のぶ(後妻)

山田莊左衛門三女
昭和二十六年正月七日歿(80)
瑞昌院徳光貞順大姉

潔 長野 藤井安治妻

(明治十五年) 生
純 長久保 竹内忠雄妻

昭和四年四月九日歿(48)
竹内純刀自瑞比賣命

(明治十八年) 生
就 東京 内藤克二妻

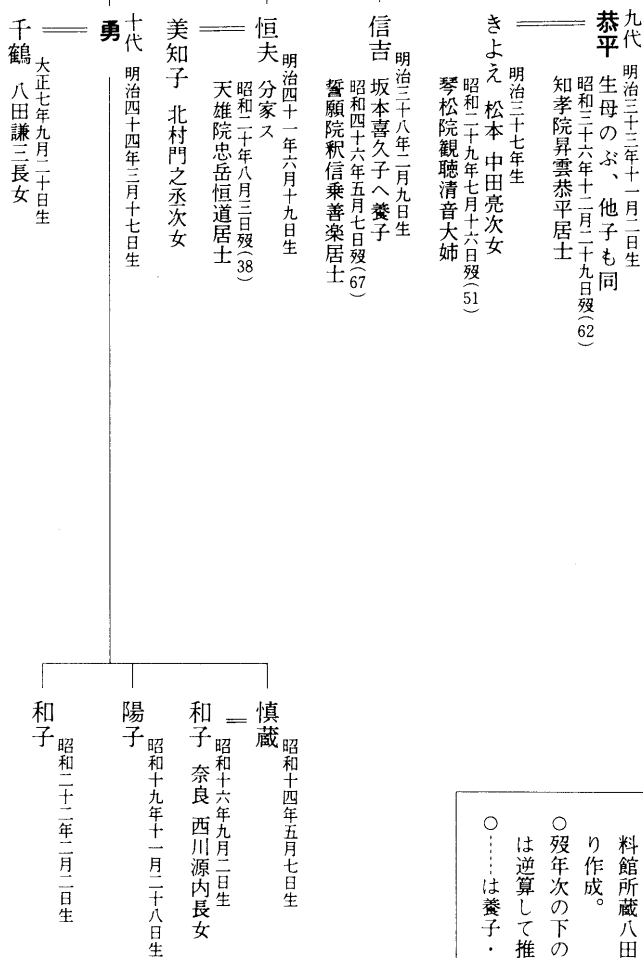
大正十五年四月二十九日歿(42)
專明理法精就大姉

諒 井上 坂本重雄妻

(明治二十六年) 生
謙三 千葉 鎌ヶ谷町へ移ル

昭和二十九年一月九日歿(72)
謙光院実相超心居士

茂子 上田 柳沢太郎兵衛次女



○ 八田家過去帳、「真田家家系図書」(八田勇氏所蔵)、「真田家家
中明細書」(国立史料館所蔵真田家文書)、「御書付写帳」(国立史
料館所蔵八田家文書あ二七四八)、および八田勇氏の御教示によ
り作成。
○ 歿年次の下の()内の数字は数えの享年。()を付した生年
は逆算して推定したもの。
○ ……は養子・養女・養弟を示す。

三 糸会所・産物会所・商法社

糸会所

文政九年（一八二六）に糸会所が設立された時、文化一二年（一八一六）より産物御用掛を勤めていた伊勢町八田家の四代当主嘉右衛門は、取締役に任命され、また別家の八田喜兵衛および同辰三郎が惣元方に任命された。松代領内製糸業の育成と統制を目的とした糸会所は、藩からの拝借金と商人たちからの借入れ金・預り金を資金として運営された。糸会所運営の中枢を握ったことによって、関連する記録文書が八田家文書の構成部分となったのである。

産物会所

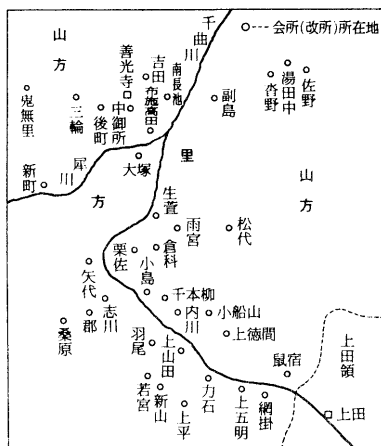
産物会所は、天保四年（一八三三）、糸会所の機構が拡充されて設立された。糸会所と同様その運営については、取締役に八田嘉右衛門が、元方に別家の八田喜兵衛および同辰三郎が任命され、運営を掌握した。嘉右衛門の悻嘉助（五代当主）、嘉助の悻慎蔵（六代当主）も産物会所掛りをつとめた。

産物会所の設立目的は広く預内諸産業の育成と統制を図ることにあり、そのために産物助成金を貸し下げるとともに、鑑札制度を実施して冥加金を取り立てた。また取引をめぐる紛争の調停機能も果たした。統制の対象となった品目は時期によって変化している。

当初の天保年間には絹紬の取り扱いに集中していた。弘化・嘉永年間には、八田家の主導で荒神町に陶器竈を築いて生産する企てもあった。これは公害問題をひきおこした。嘉永年間には松代領内の特産物である甘草・杏仁を取り扱った。甘草・杏仁を引当として大阪商人炭屋彦五郎から御用金を借り入れるためであった。結局は失敗に終わったようである。

とはいえ幕末期には、会所組織は領内村々にまで拡大され、鑑札制度も再編された。慶応元年（一八六五）、領内の二三カ村に産物会所（産物改所とも称す）が設置され、それぞれ取締役・世話役が任命された。村々に置かれた産物会所（産物改所）は、その周辺地域での生産物を改め、改め冥加金を徴収した。この時の主たる対象生産物は、当時横浜開港によって飛躍的に需要の増大した生糸・蚕種であった。

産物会所（産物改所）所在地略図



産物会所（産物改所）設置村々

慶応元年設置	慶応3年設置	明治2年設置
後町 内川 三輪 南長池 新町 吉田 大塚 若宮 桑原 中御所 福島 上山田 鼠宿 原 網掛 羽尾 上五明 矢代 力石 上平 湯田中 佐野 沓野	新山 郡 倉科 雨宮 布施高田 上徳間 向八幡 上船山 千本柳 生萱 栗佐 志川	中牧 小島 鬼無里

松代商法社

慶応四年の大政奉還は諸大名の統治権返上となり、府県藩という新行政機構への転換を進めた。松代藩という新しい機構の下に
旧来の諸制度は改編された。商法社は計政局（会計・借入れ金担当）管轄の下、領内商人の資本力を結集するために明治二年に設
立された。商法社取締役には横浜交易で活躍していた羽尾村大谷幸蔵（屋号大國屋）が任命された。取締役の下に、商法掌九名、商法方二二名、
商法方補二五名がいて、商法社の運営に当った。商法社には羽尾商法社と松代商法社の二つがあった。

八田家がこの商法社運営に直接かかわったのか、あるいは計政局という藩行政部局にかかわることで関係が生じたのか定かでない。しかし産
物会所の産物振興機能や統制機能との実質的な連続性の故であろうか。ある程度の量の商法社記録が八田家文書中に存在しているのである。

四 八田家文書の構造把握と類別配置

（一）文書群の構造把握と類別配置の方法論

伊勢町八田家はいままなお継続して家業をまもっておられるが、代々保存されて来た膨大な文書群についてはほぼ明治初年を下限とする部分を、昭和二八年、公共的保存・学術的利用に供するために史料館に譲渡された。その文書群とは、宝永年間の本家木屋町八田家からの分家独立、諸営業の開始以来、明治初年にいたる一七〇年ほどの長期間にわたるものであり、伊勢町八田家が遂行してきた社会的経済的文化的活動にかかわる諸記録の集積なのである、と概括的にいうことができる。

しかしこの集積された諸記録とは、たまたま焼却されたり破棄されたりすることがなかったために、なんとなく残ってしまったというような単純な紙屑の堆積ではあり得ないのである。集積された諸記録とは、集積した八田家にとって、家業や諸役職などの多岐にわたる業務をそれぞれに遂行していく上で必要な意思伝達や管理情報を媒体上に記録化した参照書類なのであり、かつ他家の活動とは異なる八田家独自の組織運営の成果そのものである。したがって社会的経済的文化的活動というような一般的・概括的な捉え方だけでは、この文書群が内包している複雑でかつ具体的な組織体活動の構造を正確に把握する方法論的立脚点とはなりえないのである。

これまでの文書群の整理・目録作成という作業においては、社会的経済的文化的活動一般についての抽象的概念に基づく汎用的超時間的分類項目を先験的に設定し、ついで個々の文書の内容記載事項との関連度がある程度判断して、適当と思われる分類項目にはめこむという主題優先的分類方法が多く用いられてきた。この方法では一七〇年にわたる八田家独自の活動の所産としての文書群形成の過程と構造、つまり歴史的特性を無視してしまうことになる。こうした考え方は、文書群を整理し目録を作成するための基準ないし出発点を何におくかということが不明確なままに、分類することが整理することである、という云い方が独り歩きしたためといえよう。

上述の汎用的超時間的分類方法を非とした場合、別の考え方として、すべての個々の文書について、もしくは少なくとも文書群毎に編年目録

を作成することで、時間の前後関係に依據した因果関連を追求する歴史研究の作法に忠実に従っている、と考える人もいるであろう。

また目録というものが検索手段として作成され利用されることから、それぞれの利用者にとって必要な史料情報が全て目録の上に適切に構成され配置されている筈だと、期待される向きもあるようである。

しかし検索手段の形態はただ一種類のみに限定されるものではないし、逆にただ一種類の印刷目録に全ての検索機能を盛り込むためには、人と費用という多大の制約条件を克服できるとしても、かなり複雑な仕事となるであろう。どうしても必要とあれば、汎用的超時間的分類概念による事項別主題分類索引ないし主題事項五〇音配列索引も、単純編年配列目録も、あるいは人名索引・地名索引・役職索引その他、いかなる形であれ、利用者のための便宜供与に役立つような検索手段を作成することは、無用とはいえない。とはいえ上記のような索引や編年目録は副次的検索手段にすぎないことを銘記すべきである。

一七〇年にわたって蓄積・保存されてきた伊勢町八田家文書とは前に述べたように八田家の多面的な家業・役職にかかわる具体的活動の総体を反映しているのである。繰り返していえば八田家というのは、その内部において多岐にわたる家業のそれぞれについて業務を分担させ、それぞれの分担業務を遂行させるための意志決定をしたり、その意志決定を伝達して行動する、あるいはした際の情報と知識を、特定の記録媒体に固定化つまり記録書類化して蓄積し、その情報資源を活用することで運営を行ってきた一つの組織体なのである。また諸役職とは、八田家からいえば外部の組織体である一〇万石大名真田家の藩政機構の一端に所属することによって与えられた位置付けなのである。その位置付けにあることによって果たさなければならない役職勤務を遂行することで、藩政機構という組織体のもつ管理機能を実現することになる。

かくして八田家は家業の運営機能と、また真田藩政機構での役職機能という二つをあわせもつ有機的組織体として特有の内部機構をつくりだした。さらに複数の下位部門が日常的に業務の管理を遂行し、必要な記録書類を作成・受理し、蓄積を実行した。つまり複数下位部門の管理運営のそれぞれが、当主の統括機能を軸として有機的に結び付けられて組織され、その意志伝達と業務遂行および記憶装置としての機能を果たしたのが、総体としての八田家文書なのである。

こうした組織化を必要としたのは、八田家が商家であったからというにとどまらない。「家」名跡の永続性を目標として存在する経営体は、

公家であれ、大名家であれ、百姓家であれ、あるいは神社・仏閣であれ、規模や程度に違いはあっても、その存在証明として、自己主張としての意志決定とその遂行を存在環境（自己以外の経営組織体）と相互に通信しあい、また受け継がれるその家の過去および現在の行為を記憶媒体に載せ、未来への継続性を実現するために「家」経営の組織化を行ない、組織体としての機構を構造化していくのである。

文書群を整理し目録を作成する際、まず必要なことはその文書群を蓄積し保管してきた組織体の特有な性格を把握することである。ここにいわゆる図書館資料としての書籍の整理・目録作成と根本的に異なる方法が必要とされる理由が存在するのである。いいかえれば構造化された組織体における管理機能を実現するための、意志伝達装置かつ行為記憶装置としての記録書類という概念を理解し、その組織体特有の業務と運営の在り方を解明することこそが、文書群構成の特性把握の基礎なのであり、文書群を整理し目録を作成することの出発点となるのである。そしてその文書群特性とは、蓄積母体としての組織体の活動とその記憶、つまり蓄積された文書群そのものに内在しているのであるから、文書群の整理とは文書群に内在する組織編成構造を発見するという研究作業たらざるを得ない。研究作業としての方法を一言する所以である。

（二）伊勢町八田家文書の類別配置と概要

「八田家文書目録（その一）」において、本文書群の主要部分である冊子体史料（含む関連状物）を目録化した大藤氏は、組織・役職を基準に八田家文書の構成を、つぎの五つに大別した。

（A） 八田家「内方」の文書、家事家計管理のための家政機関かつ各店の統括機関であり、さらに「店」として分離独立するにいたっていない営業の管理機能をになう部門。

（B） 八田家「店方」の文書、専門分化した酒蔵方（酒蔵・酒店）、呉服店、油店、醤油店（松井店）、質店の各店。

（C） 松代町役人文書、町年寄四人のうちの一人として、八田家当主が当番勤役中に作成・受理した系列に属するもの。

（D） 松代藩御勝手御用役など、代々の八田家当主が藩政機構の一員として出仕した役職上、作成・受理した系列に属する文書。

（E） 糸会所・産物会所・商法社の文書、松代藩の一機構としての諸会所の頭取などを勤めたことによるもの、松代藩御用の一種であるが、

組織上、異なるので（D）と分離して扱わねばならない系列の文書。

「八田家文書目録（その二）」においても、取扱い点数こそ（その一）に比べ約三分の一と少ないものの、上記の五部門のそれぞれに系列化できる各部門の文書がほぼ存在している。八田家文書目録（その一）に漏れた分、欠けていた分を補う事になったと、云ったほうが当たっているであろう。これは松代の八田家から東京の史料館への移動および史料館における受入れ簡略目録作成といった取扱いのなかで、ある程度史料の原配置・配列や纏まりが崩れたことによるのであろうが、八田家の運営にかかわる組織構造の発見と、できる限りの原型復元への努力という方法を踏襲した結果である。

五部門のそれぞれの内部構成と配列についても、（その二）において採択された二段階構造化つまり中項目・小項目の設定にしがっている。ただし個々の文書史料がどの系列に属しているかについては、大項目↓中項目↓小項目へと展開させるのではなく、個々の文書史料の記述形式、記録媒体の形態、記述の内容などを精査して、小項目↓中項目↓大項目へと帰納的に積み上げた。したがって史料番号（書棚配置順序）と目録上の配列順序とは一致しないことになる。

収録史料についての概要は（その一）を参照されたいが、二、三、特色のある史料を指摘しておこう。

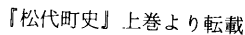
内方文書奉公人の項目に、「奉公人給金不払一件」がある。これは文政年間に八田家に奉公していた人の子が天保一三年に父の給金不払い分を請求した訴訟にかかわるものである。当時の商家における労働条件とその対価支払いについての慣行を知り得る。

内方文書棚卸の項目は、宝暦一年から文化一一年にいたる棚卸目録が若干みられ、（その二）における欠を補うことができる。

店方文書酒造方にも勘定目録があり、安永一〇年、文政二年から嘉永五年にかけてを補うことができる。あわせて利用されたい。

〔付記〕

「伊勢町八田家文書目録（その二）」の解題は安澤秀一が担当した。



史料館所蔵史料目録 第四十八集
信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その二）

平成元年三月三十一日 印刷発行

東京都品川区豊町一丁目十六番十号

国文学研究資料館内

編集者 国立史料館
発行者

東京都中野区中央四丁目八番九号

印刷所 株式会社 三協社